2018　風来坊　　Country Walk

里歩き・山歩き・街歩き　2018

水行末　雲来末　風来末

2019.　3.　5.

Mutsu Nakanishi Home Page

http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/

Iron Road　縄文　ふらっと訪れた街の景色　四季折々
日本各地に残る素晴らしい風景
歳をとるにつれ、遠くへはなかなか行けませんが、まだまだ元気　好奇心一杯
思いつくまま　気が向くままに　四季折々　ふらっと訪ねています。
毎年　同じ景色を眺めるのも楽しみ　ふと見かけた自分だけの景色の発見もうれしい
全くの独りよがりの風景の羅列です。
体力の衰えはいかんともしがたく、だんだん　山や谷筋へ入れなくなってきましたが、
その分　街歩きの楽しみも増えました
おもいつくまま 気が向くままの風来坊 水行末 雲来末 風来末
自分だけの景色をきざむ楽しみです

Country Walk　風来坊

By　Mutsu　Nakanishi

2018.3.5.

風来坊 Country Walk　2018

水行末 雲来末 風来末　和鉄の道　風来坊

Iron Road　縄文　ふらっと訪れた山・里・街角　そして歴史を訪ねて
日本各地には　自然・人・地域・歴史の痕跡とともに
地域それぞれ・四季折々　素晴らしい日本の原風景が残り、
訪れると　いつも新しい発見があり、　自分だけの景色で迎えてくれる
Country Walk の楽しみです

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。

日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800 年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。
「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調される一方で、文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本を作ってきた。
人里離れた里山の谷筋や川筋・海岸などなどに、産業生産・工房・街・街道などの痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマとともに日本の原風景といわれるすばらしい景色が今も残っています。

そんなIron Road歩きを中心に好奇心いっぱい。足の向くまま気の向くまま 日本各地に残る素晴らしい四季折々の風景を求めてCountry Walk10数年。
最近は年とともに遠くへ行かれなくなりましたが、
まだまだ元気　好奇心も一杯。
すばらしい景色とともに数々の出会いの楽しみも。
日本各地のCountry Walkを楽しんでいます。

風来坊　Country walk　　Mutsu Nakanishi from Kobe

風来坊・Country walk 2018

水行末 雲来末 風来末　山歩き・里歩き・街歩き

まえがき＆ 掲載 トピックス

本年も私の住む神戸を中心とした近郊の里を季節折々訪ねる相も変らぬ花便り・近郊ハイクの楽しみに、
一日 8000 歩健康 walk も相変わらず続けることができ、その過程で見つけた神戸須磨界隈の四季の景色も
　冬　蝋梅・水仙・椿に始まり　春 梅・カタクリと芽吹きの樹々に始まり、新緑・菜の花・桜　そして石楠花・バラへ
　夏はクリンソウ・アジサイ・ひまわり そして　秋は黄金色に輝く播磨の田園とヒガンバナ
　そして、コスモス・県花ノジギク満開の散歩道から紅葉等々。毎日の walk が楽しみ。
　また　日に日に成長する孫たちと一緒に遊ぶこともおおくなり、孫の Photo も・・・・
毎年同じような情景の記録ばかりですが、季節の移り変わりの定点観測と健康で動けることに感謝しつつ、好奇心いっぱいの季節の移り変わりを知る楽しい機会に。
でも　今年は地球温暖化に伴う急激な気候変動とさらには地球が活動期に入り　自然災害の多発とともにその猛威の巨大化で思い描いていた季節感が大幅にずれるばかりでなく、里山や車窓に見る街の景色にも、災害猛威の跡が今も残り、季節の walk を楽しむとのんきなことを言っている場合ではないとも。
想定外が常態化する今、老齢を迎える我々には厳しい時代
みんなに助けてもらいながらも「予知感度を挙げて　陣の実は自分で守る」と強がりの日々。
そんな日々　四季折々神戸で暮らす身近でとらえた 1 年を通してのデジカメ写真の歳時記。
ちよっとでも　日々の暮らしに響いていただくことがあれば……と。
日常記録の中で、わたしにとっての 2018 年の風来坊・Country walk 11 件の中からのトピックス Photo

◎　春夏秋冬　1 年を通じて歩く横尾道・西六甲縦走路　毎日 walk
　一年を通じて、鉄拐山から旗振り山・須磨アルプス・高取山そして北のしあわせの村・鵯越等々思いつくまま気の向くままコースを変えて歩きました。今年は猛威を振るった台風や大雨の爪痕が残りました。
　　また　PM25 の影響化年々見通し悪く　目安にしている大阪湾越し二上山のこぶが見えたのは数度。

◎　今年の秋の絶景　播磨灘に沈む夕日
　夕方　横尾道を歩くといつも日没・夕日にデジカメを向けるのですが、ダメ。やっと今年美しい夕日に成功

◎　春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜　漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました

◎　梅雨の晴れ間に東六甲を歩く
　いつも遠く眺める東六甲の山・谷　　かつてよく歩いた東六甲ですが、最近ほとんど歩いたことなし。
　ふと思い立って歩きました。　緑の草原　東おたふく山は西六甲では見られぬ景色　本当に新鮮でした

◎　京都八瀬の真っ赤に染まった紅葉のトンネル
　今年は暖冬の影響か　真っ赤な紅葉が見られず、寂しく思っていましたが、京都洛北　比叡山山麓八瀬で
　おもいもかれず、真っ赤に色ずく紅葉のトンネルに。京都市街地からすぐの八瀬の紅葉の美しさにびっくり。

ほかにも色々。私にとっては 1 年 1 年のうれしい四季折々歩いた Photo&映像スライドの記録。
いつも BGM には苦労していますが、BGM をつけて　ゆったりと眺めては楽しんでいます。

2018 風来坊　Country Walk　もくじ

山歩き・里歩き・街歩き 2018　11 件記載

風来坊 Country walk 【17】山歩き・里歩き・街歩き 2018

1. 新春の須磨　西六甲縦走路　鉄拐山・旗振り山　初歩き　2018.1.4.. 18walk01.pdf

六甲の山並み・大阪湾の大展望を楽しみ、久しぶりに一の谷を降りて、須磨浦海岸へ

【1.須磨高倉台から西六甲全山縦走路鉄拐山へ】⇒【2.鉄拐山西六甲から神戸～紀淡海峡の大阪湾大展望】⇒
【3.六甲連山が明石海峡に落ちる西端旗振り山】⇒【4.旗振り山から須磨浦へ 源平の歴史 一の谷を下る】⇒
【5.春の海　須磨浦と須磨海岸】⇒【6.須磨の海岸から須磨の街並みを抜けて、夕闇迫る山裾の須磨寺へ】

2　早春 walk from Kobe Suma　神戸の春はすぐそこに　2018.2 月　18walk02.pdf

梅の花が満開となり、　神戸の春を告げるいかなご漁も始まり

３月１日　深夜　春一番が吹き荒れ、待ち兼ねた春はもうすぐそこに

神戸の春の到来です

早春の気持ちを明るくしてくれる春の花　早く咲きだしてほしいと春を探しての須磨界隈早春 walk です

◎2018.2.7.	自宅東側の鴨越尾根筋の裏に隠れている獅子が池に鴨が来て遊んでいました
◎2018.2.14.	昨年はパスした遠付申告。県税事務所からの住民税申告の申告書。 遠付はほとんどなし、同じ事ならやり方が解っている遠付申告で。 申告を済ませ、網敷天満宮へ　でも　まだ梅の蕾は固い。
◎2018.2.17.	やっと暖かくなり初めた午後 澄み渡る青空に　高取山に登って　大阪湾･神戸の街遠望に
◎2018.2.18.	神戸の南京町の春節祭久しぶりに街へ　街は大勢の人で大賑わい。
◎2018.2.21.	急に暖かくなって各地の梅便りのニュース でも離岡山梅林ではまだ一輪も咲いておらず。でも久しぶりの里が心地よい
◎2018.2.24.	暖かい日が続き、ふと思い出した琵琶湖早咲きの菜の花畑 一面を黄色にする早咲きの菜の花畑に元気をもらいに････
◎　2018.2.26.	急に暖かい日が続くこの1週間 須磨walkの道すがらの須磨離宮公園梅満開の案内 半信半疑で離宮公園の梅林へ　紅白の梅が今を盛りと満開に。 また、今日　いかなご漁が解禁に･･････ 平年並みとはいきませんが、うれしい神戸の春到来。
◎2018. 2. 27.	神戸に春が来た。　そんな目でうきうき顔で街を歩く あちこち　街角で咲き始めた梅の花。うれしい春到来

3. 春の嵐が吹き荒れた翌日の“物好き Walk”　2018 3. 21.　18walk03.pdf

≪澄み渡る大阪湾の大展望と椿の道≫　妙法寺から須磨アルプス東端の東山を超えて、南の板宿へ歩く

4. 古代たたらの郷　西播磨「佐用」の春　2018　2018. 3. 31　18walk04.pdf.

春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜　漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました

5　神戸　2018 年 過ぎ行く春の Photo Album　2018.5.3.　18walk05.pdf

新緑の神戸の街で　風来坊 毎日 Good Day Now!! と

桜が散ると野山も街も一斉に新緑に衣替え 春が猛スピードで駆けてゆく

1. 4.10　久しぶりに神戸の街にでて、諏訪山レインボーブリッジに登る
若者のデートスポットですが、久しぶりに神戸の街が眼下に広がる
2. 4.14.　穏やかな春の午後　鉄拐山より大阪湾が一望　穏やかな須磨浦の海に潮目がくっきり見える
須磨の春　春の海ひねもす　のたりのたりかな

3. 4.20. 新緑に包まれた姫路城　新緑の中を舞う白鷺のごとし　緑のトンネルの中を歩く
鉄鋼マンとしての出発をした若者たちの一群が写真を撮っているのであう。
わたしにも昔こんな時代があったと懐かしく　若者たちにエールを送る

4. 4.23 自覚の角先も真っ赤なポピーが咲いて　華やかに　いつもの春の角先に

5. 4.27. シャクナゲ2018 盛りが過ぎたかと心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
今年も新緑の谷を埋め尽くす日本シャクナゲ　新緑の中に咲くハンカチの木や
ドウダンツツジにも出会えました。
谷の上部のホソバシャクナゲはいつもはこれからという時期ですが、ちょうど盛り
ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書く。これは山口の「特牛・コットイ」級の難読や

6. 4.27. 東播磨吉川の黒滝三木市吉川町の美嚢川幅一杯　幅30m、落差4mの滝　）
東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる
こんな美しい滝「黒滝」がある。水辺が恋しくなってきた矢先、初めてたずねました

7. 5. 1. さわやかな五月の風に横尾道　のじぎくの丘の大空を泳ぐこいのぼり

8. 5. 3. 5月の連休はいつものごとく家で休養
待ちかねたアグロステンマの花が咲いて　5月の角先・庭に掉尾を飾るバラの香りが漂う
薫風5月　Good Day　今日も元気に　孫たちも帰ってのんびりと

6　何万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷　2018.5.12.　18walk06.pdf
第58次南極観測隊　岡田雅樹博士からの贈り物　南極の氷山から切り出した南極氷がわが家に届きました

7　梅雨の晴れ間に東六甲を歩く【1】　2018.6.14.　18walk07.pdf
六甲山上　高山植物園　より六甲最高峰を経て　久しぶりに住吉谷を下る　.

1. 初夏の高山植物やニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園
2. 六甲山上の縦走路を東へ山上散策　六甲山最高峰へ
3. 有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「魚屋道・住吉道」を住吉谷を下る

■ 六甲の川物語「住吉川物語」 国土交通省　六甲砂防事務所
https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/sumiyoshi/sum-b.pdf

8　梅雨の晴れ間に東六甲を歩く【2】　2018.6.22.　18walk08.pdf
表六甲東灘　阪急岡本から尾根筋を　保久良神社・風吹岩・雨ケ峠を経て東おたふく山へ

9. 西神戸・東播磨 うれしい秋の訪れ　2018小さい秋　みぃ～つけた !!　18walk09.pdf

1. 初秋　西神戸
みのりの田園地帯を彩る彼岸花　白川&伊川谷の里で
2. 初秋　東播磨
加古川市志方広尾集落から福甸峠を超えて小野市きすみのを訪ねる
コスモスの里志方広尾&福甸峠から見るきすみの棚田・きすみののそば畑
3. 東播磨 酒米の郷に秋を告げる風物詩
加東町から三木市吉川 酒米の田の畦にはためく酒蔵の旗
東町木梨の郷ほかで

10. 2018 西神戸・須磨界隈　10月 深まり行く秋点描　2018.11.3.　18walk10.pdf
小さな秋 みぃ～つけたぁ気ままな須磨・東播磨のwalk

■ 高塚山から眺める播磨灘・明石海峡・大阪湾沿岸全景
沿岸を東へ連なる六甲連山　全山縦走路の山々の展望
■ 2018秋　コスモス　from Kobe　西播磨のコスモスの里 志方を駆ける
■ 秋の日暮れはつるべ落とし　横尾道で茜色に染まる日暮れを楽しむ
■ 秋のバラ2018　須磨離宮公園で　ほか

11　京都八瀬の真っ赤に染まった紅葉のトンネル　2018.11.29.　18walk11.pdf

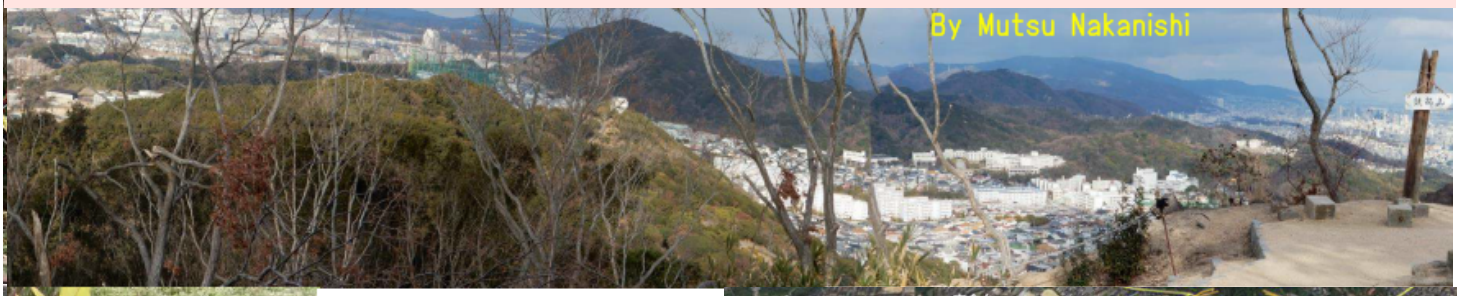
2018 Walk
01

Country Walk【17】2018

新春 須磨西六甲縦走路 旗振り山へ初歩き 2018.1.4.

高倉山・鉄拐山から旗振り山へ 帰りは一の谷を須磨浦へ降りる

By Mutsu Nakanishi



縦走路へ高倉山山腹遊歩道から眺める明石海峡・明石大橋 2018.1.4.

縦走路へ登りきると一面に大阪湾が一望 眼下に神戸の街が広がり
海を挟んで遠く生駒山から葛城・金剛の山並みも見える 2018.1.4.

毎度なのですが大阪湾の向こうに見える山並みの中に 二上山の二つこぶを探す
今日はうっすら 見えているようだ。

大阪湾の対岸 大阪・堺沿岸の街並・工場群の奥 金剛・葛城山の山並の北端に
うっすら二上山の二つこぶが見え、ラッキーな気分も倍増 2018.1.4.

群生するワバメガシの林の中を縦走路・大阪湾が見晴らせる鉄拐山の頂上へ 2018.1.4.

群生するワバメガシの林の中を縦走路・大阪湾が見晴らせる鉄拐山の頂上へ 2018.1.4.

鉄拐山山頂　大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所　2018.1.4.
東から南へ　六甲連山・神戸の街並み　そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望

大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所　鉄拐山山頂　2018.1.4.
高倉台の住宅地、正面に六甲縦走路の山並みが見えている。
左手手前から 横尾・栂尾山、その後ろ高倉山　手前から高取山から菊水山・摩耶山・神戸の市街地の後ろ東六甲

鉄拐山山頂からの大展望　2018.1.4.
東から南へ　六甲連山・神戸の街並み　そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望

東側の展望:　六甲の山並みを中央に[illegible]の山並みが[illegible]間には神戸の
市街地・大阪湾が広がっている。　六甲全山縦走路全[illegible]展望台である。　2018.1.4.

鉄拐山より、西六甲全山縦走路の山々を眺める　2018.1.4.
左手手前に高倉山　高倉台の住宅地を挟んで 横尾・栂尾山の須磨アルプス
その後ろ写真正面に高取山・塔の見える菊水山・摩耶山・神戸の市街地
そして東六甲の山並みが立ち並ぶ

北側の展望:　須磨名谷ニュータウンが広がり、その奥に西神戸の象徴
神出の櫛岡山・雄岡山がどっしりと座っている。2018.1.4.

鉄拐山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <1>　2018.1.4

鉄拐山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <2>　2018.1.4

群生するウバメガシの林の中を縦走路 いつもの散策路　鉄拐山の下山　2018.1.4.

全山縦走路の西の端　旗振り山山頂　正面に淡路島・明石海峡・明石大橋
六甲連山が明石海峡に落ちる西の端　摂津/播磨の国境である　2018.1.4

新春のひざしに輝く須磨の海　淡路島・明石海峡 旗振り山 <1>　2018.1.4.

新春のひざしに輝く須磨の海　淡路島・明石海峡 旗振り山 <2>　2018.1.4.

ふと頭に浮かんで、久しぶりに　一の谷を降りて　須磨浦海岸へ出て　網敷天満宮・須磨寺を巡って帰る

須磨　源平の古戦場　一の谷
旗振り山の南東側　林の中を崖けが続く谷筋の山腹のトラバース道　枝尾根を巻きながら下る。
「一の谷の逆落とし」　こんな崖をよくもま降りたなあ…と思う谷筋である。　2018.1.4.

須磨　源平の古戦場　一の谷
視界がぱっと開け、市街地が見えるが、震災で崩壊したところ　下は崖で谷にはおりれない
崖に沿って、急な階段道を下って　尾根筋を南の須磨浦へ下ってゆく…　2018.1.4.

須磨　源平の古戦場　一の谷
急な階段道を下ると　また林の中…寄手塚・身方塚のすぐ横に出た。
真っすぐ南の須磨浦へ下ってゆく…　2018.1.4.

須磨　源平の古戦場　一の谷
源平の戦の伝承地一の谷、かつて梅木正成が敵・味方両方の戦死者を弔うため、寄手塚・味方塚
を作った古事に倣って、第二次世界大戦の戦没者慰霊のために作られたという。
ここを下ると一の谷町。　悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地　2018.1.4.

林の中　一の谷の山道を抜けるとぱっと正面に海が見える一の谷町の住宅地
まだ、海はづっと下の高台　一の谷の出口　一の谷町の住宅地　眼下に海が見える　2018.1.4.
住宅地の一角に大きな蘇鉄の見える一の谷公園があり、この地が悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地

一の谷町にある安徳天皇内裏の伝承地の南側入口　2018.1.4.
坂ろせ　台所ってきた鷲尾り山から鉄拐山の山並みが見える一の谷である
また、標高50m以上ある高台の住宅地の中　一の谷公園として安徳天皇内裏の伝承地が整備されている。

一の谷公園　安徳天皇内裏の伝承地　2018.1.4.
この地域は上ロ[illegible]で[illegible]が作られた場所で、大きな[illegible]がその名残である

安徳天皇内裏の伝承地　一の谷公園　安徳宮
安徳天皇の冥福を祈って[illegible]がまつられている。　2018.1.4.

一の谷公園からは　西に　ロプウェイがかかる鉄伏山・その奥に旗振り山が見えている　2018.1.4.

一の谷町はまだ標高50m以上ある高台の住宅地　眼下には　須磨浦との狭い間を走り抜ける
JR・山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくのが見える　正面は須磨浦　海釣り公園の向
こうは紀淡海峡　和歌山の山並みと淡路の[illegible]が遠くかすんでいる

一の谷町九十九折れ階段より　須磨の浦
眼下には須磨浦との狭い間を走り抜けるJR・山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくのが見える。
正面は須磨浦　海釣り公園の向こうに紀淡海峡が遠望。
ここから、九十九折れの階段を海岸の線路ぎわまで降りて須磨浦の海岸へ出る。

一の谷町九十九折れ階段より　須磨の浦　2018. 1. 4. 須磨浦海岸

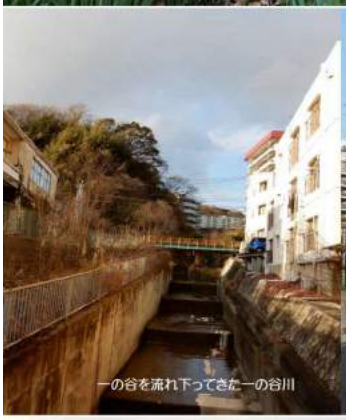
須磨浦海岸より紀淡海峡遠望　2018.1.4.
和歌山の山並みがかすむ右が紀淡海峡　そして　海峡に浮かぶ友が島が遠くみえている

須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には　町の人たちが植えた水仙が満開に　2018.1.4.

須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に　2018.1.4.

須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開

須磨浦海岸に出るとちょうど午後4時前
JRと山陽電車に挟まれた狭い海岸を国道2号線が抜けてゆく 2018.1.4.


一の谷を流れ下ってきた一の谷川

国道2号線を東へ 須磨駅周辺のR2 2018.1.4.

須磨の山並みの山裾 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.

須磨の山並みの山裾 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.

須磨寺の墓地を抜けて 北側の出口へ帰りを急ぐ 2018.1.4.

高倉台
須磨離宮
▲高倉山
須磨寺
網敷天満宮
▲鉄拐山
旗振り山
一の谷
JR須磨駅
▲鉢伏山
須磨浦
© 2017 ZENRIN
海釣り公園
Google

旗振り山から一の谷を下って 須磨海岸へ
網敷天満宮・須磨寺へ寄って帰る 2018.1.4
鉄拐山
一の谷
須磨駅
須磨海づり公園

2018 Walk 02

【Photo アルバム】早春 walk from Kobe Suma　2018.3.5.

やっと暖かくなり始めた 2018 年2月下旬
梅の花が満開となり、　神戸の春を告げるいかなご漁も始まり
３月１日　深夜　春一番が吹き荒れ、待ち兼ねた春はもうすぐそこに
神戸の春の到来です

やっと暖かくなった２月中旬　春を探しての須磨界隈早春 walk

早春 walk from Kobe Suma　Photo　抜粋
早春の気持ちを明るくしてくれる春の花　早く咲きだしてほしいと

◎ 2018.2.7.　自宅東側の鵜越尾根筋の裏に隠れている獅子が池に鴨が来て遊んでいました
◎ 2018.2.14.　昨年 還付申告をパスすると県税事務所からの住民税申告の申告書が送られてきた。
同じ事ならやり方が解っている還付申告で。 還付はほとんどなしですが・・・・
須磨税務署で申告完了。いつものコース網敷天満宮へ　でも今年はまだ梅の蕾は固い。
◎ 2018.2.17.　やっと暖かくなり初めた午後　澄み渡る青空に高取山に登って大阪湾・神戸の街遠望に
◎ 2018.2.18.　神戸の南京町の春節祭　久しぶりに街へ　街は大勢の人でにぎわいました
◎ 2018.2.21.　急に暖かくなって　各地の梅便りのニュースに毎年春を知る郷　西神戸神出へ
でも　雌岡山梅林では　まだ一輪も咲いておらず。でも久しぶりの里が心地よい
◎ 2018.2.24.　暖かい日が続き、ふと思い出した琵琶湖早咲きの菜の花畑
一面を黄色にする早咲きの菜の花畑に元気をもらいに・・・・
◎ 2018.2.26.　急に暖かい日が続くこの１週間
須磨毎日 walk の道すがら、須磨離宮公園の入口に　梅満開の案内が・・・・
半信半疑で離宮公園の梅林へ・・・・。紅白の梅が今を盛りと満開に・・・。
また 今日 神戸春の風物詩 いかなご漁が解禁に!! うれしい神戸の春到来。
◎ 2018.2.27.　待ち兼ねた春　神戸に春が来た。うれしい神戸の春到来
うきうき顔で、街を歩くと あちこち　街角で咲き始めた梅の花。

度重なる寒波もやっとおさまって、　家籠りから抜け出して、また、好奇心いっぱいのwalking再開
澄み渡る青空　　静かな獅子が池には飛来した鴨が遊び、高取山に登って　大阪湾・神戸の街遠望
眺める街も海も　青空に鮮やかに映えて、近し　久しぶりに生駒山が遠望できました　2018.2.17.

春節を祝う人たちの明るい笑顔があふれる神戸の街　2018.2.18.　元町　南京町で　春節祭

暖かい日が続き、ふと思い出した　東近江守山琵琶湖岸に咲く早咲きの菜の花畑

雪を戴く比良の山をバックに 一面を黄色にする菜の花畑に元気をもらいに・・・・

2018. 2. 24.

東近江路　久しぶりに琵琶湖東岸の湖岸道路を北の守山へ　　琵琶湖の向こう　比叡・比良の山々を眺めながらの快適なドライブ　今日は春ウララ　　2018.2.24.

東近江　琵琶湖大橋北　守山市　なぎさ公園の早咲きの菜の花畑　　2018. 2. 24.
正面に琵琶湖越しに　雪を戴いた比良 蓬莱・打見山
見たかった早春一番の景色　雪景色をみたかったフラストレーションも晴れ晴れ

帰りは琵琶湖大橋を渡って琵琶湖西岸を堅田-和邇-近江木戸-北小松-近江舞子-高島と巡る　2018. 2. 24.
学生時代によく通った比良の山裾　地名を懐かしみつつ、湖の中に鳥居がある近江最古の社　白髭神社へ

暖かな日差しの中、久しぶりに見る雪を戴いた比良の姿と一面を黄色に染める菜の花畑に気分ランラン
白髭神社に行けたのも収穫　残雪の残る近江の里にはであえませんでしたが、近江路も　もう春です

須磨離宮公園の梅　紅白の梅が今を盛りと咲き誇り、2018年の春を告げていました　2018.2.26.

「須磨離宮公園の梅が満開を迎えている」と聞いて　半信半疑で訪れました。
つい先日訪れた時にもまだ蕾は固く、須磨の梅はまだ先だと思いましたが…
紅白の梅が今を盛りと咲き誇り、2018年の春を告げていました

弥生３月 うれしい 神戸の春到来　身も心もリフレッシュ 元気だしてゆこう!

2018. 3.1.　by Mutsu Nakanishi

早春walk from Kobe Suma

1月下旬からの度重なる寒波に震えあがった日々。
蝋梅・水仙の花の遅れが気になった毎日walkの合間
やっと蝋梅・冬柳が咲き出した頃、遅すがら、梅の枝を見上げるのですが、毎年咲きだし
始める通行申告の時期になっても街の梅も固い。
気持ちを明るくしてくれる春の花
早く花が咲きだして!!と春を探しての須磨界隈の早春walk・・・・

◎2018.2.7.　住宅の東側　鵯越の山の麓に隠れている獅子が池に鴨が来ていました
◎2018.2.14.　昨年はパスした遺付申告。　県税事務所からの住民税申告の申告書。
遺付はほとんどなしですが、同じ事ならやり方が解っている遺付申告で。
申告を済ませ、菅敷天満宮へ　でも　まだ梅の蕾は固い。
◎2018.2.17.　澄み渡る青空　高取山に登って　大阪湾・神戸の街道望に
◎2018.2.18.　春祭が始まった元町商店街　街は大勢の人でにぎわいました
◎2018.2.21.　急に暖かくなって　各地の梅便りのニュースに西神戸神出の盤岡山梅林へ
でもまだ一輪も咲いておらず。
◎2018.2.24.　暖かい日が続き、ふと思い出した琵琶湖早咲きの菜の花畑
一面を黄色にする早咲きの菜の花畑に元気をもらいに・・・・
◎ 2018.2.26.　須磨毎日walkの道すがら、須磨離宮公園の入口に　梅満開の案内が・・・・
半信半疑で離宮公園の梅林へ・・・・、紅白の梅が今を盛りと満開に・・・。
また、今日　いかなご漁が解禁に・・・・・・
平年並みとはいきませんが、うれしい神戸の春到来。
◎2018.2.27.　神戸に春が来た。　そんな日やっぱり須磨で、枝を見ると
あちこちの梅が咲き始め。　うれしい春到来

高取山　北山腹から眺める獅子ヶ池 2018.2.17.

獅子ヶ池　2018.2.7.

高取山北麓　風早乗越　獅子が池　鴨が陽光をあびて　のんびりと泳いでいます

風早乗越・一望台より大阪湾を眺める　2018.2.17.

澄み渡る空に　久しぶり高取山へ　2018.2.17.

高取山　から眺める神戸の街　2018.2.17.

高取山　から眺める神戸の街　2018.2.17.

高取山北山腹から眺める西六甲の山並み　2018.2.17.

高取山北山麓から眺める菊水山 2018.2.17.

若草山住宅地の下 車集落の田園地 2018.2.17.

妙法寺 車集落の田園地から眺める春のたそがれ 2018.2.17.

春節を迎えて賑わう神戸三宮 2018.2.18.

春節 神戸 南京町で 2018.2.18.

春節祭 神戸 南京町で 2018.2.18.

春節祭 神戸 南京町で 2018.2.18.

原チャリを走らせ、いつも早春を駆ける西神戸神出 雌岡山へ
神出神社から南 田園地帯の眺め 2018.2.21.

早春の美しい景色を作る雌岡山の梅林もまだ梅の蕾固し
西神戸神出 雌岡山東山麓の梅園から 雌岡山を眺める 2018.2.21.

今年は大寒波襲来で 早春の花の咲くのが遅れた2月
雪を戴く比良の山々を背に一面の菜の花畑
雪山と真っ黄色の菜の花畑が 見たくなって
東近江 琵琶湖守山 久しぶりに なぎさ公園の早咲き菜の花畑を訪ねました
2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.

早春の琵琶湖東岸 湖岸道路 比叡山を眺めながら北へ 2018. 2. 24.

早春の琵琶湖東岸 湖岸道路から眺める琵琶湖大橋 2018. 2. 24.

早春の琵琶湖東岸 湖岸道路から眺める琵琶湖大橋 2018. 2. 24.

早春の琵琶湖東岸 湖岸道路から眺める琵琶湖大橋 2018.2.24.
背後に雪を戴く比良連峰 蓮華 釈迦山が すぐそこに

琵琶湖越しに雪を戴く比良連峰 蓮華・打見山を背に
東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑で 2018.2.24.

菜の花畑の背後に 久しぶりに見る雪を戴く蓮華・打見山に満足感一杯 2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.

久しぶりに見る雪の比良連峰　そして満開の菜の花畑の明るさに満足感一杯で、なぎさ公園をあとにする。
帰りは琵琶湖大橋を渡って琵琶湖西岸へ
比良の山裾を北に走れば、まだ雪が残る里が見られるかも
また、湖の中に鳥居がある近江最古の社白髭神社はどうなっているのだろうか
比良の山裾に沿って、堅田-和邇-近江木戸－北小松-近江舞子から高島の白髭神社へ
湖岸道路を北へ巡り、堅田へ戻って朽木街道途中から大原を抜けて京都へ帰ってきました。

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園から琵琶湖西岸に眺める比良 蓮華・打見山 2018.2.24.

琵琶湖大橋を西に渡ると湖西線 堅田駅前　湖西線の後ろに比良 蓮華・打見山 2018.2.24.

琵琶湖西岸を北へ 比良 左:蓮華・右:打見山がすぐそばに・・・近江木戸周辺で　2018.2.24.
打見山は現在は琵琶湖バレーの観光地 かつてはカーレータ 今はロープーウェイが山頂をつなぐ

琵琶湖西岸を北へ 比良 左:蓮華・右:打見山がすぐそばに 近江舞子周辺より 2018.2.24.

琵琶湖西岸を北へ 比良 左:蓮華・右:打見山がすぐそばに 北小松周辺より 2018.2.24.

白髭神社 湖中鳥居　高島市鵜川　2018.2.24.
鳥居の向こうに沖ノ島がかすんでいるが、今日は良く見えなかった

琵琶湖湖岸に建つ 近江最古の社 白髭神社　高島市鵜川　2018.2.24.

白髭神社 湖中鳥居　高島市鵜川　2018.2.24.
鳥居の向こうに沖ノ島がかすんでいるが、今日は良く見えなかった

近江最古の社 白髭神社　高島市鵜川　2018.2.24.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

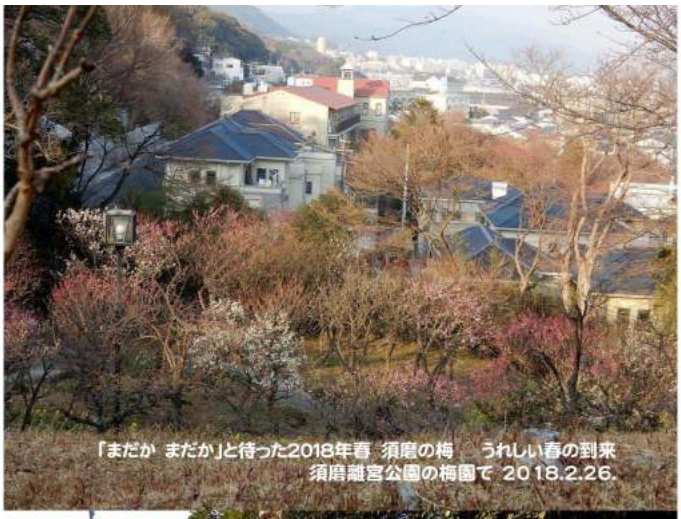
須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

ヒヨドリと思いますが、鶯居も花をついばみ
須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



「まだか まだか」と待った2018年春 須磨の梅　うれしい春の到来
須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.

この寒い2月を楽しませてくれた椿の花にも感謝の春到来
真っ赤な色も鮮やかに　須磨離宮公園梅園で 2018.2. 26.

西六甲須磨アルプス東山よりの遠望 2018.2.27.

我が家のある若草山の住宅地を正面に遠望
初めて歩く横尾道の東端から東山・馬の背への登山道より 2018.2.27.

やっと暖かくなり始めた 2018 年2月下旬
梅の花が満開となり、　神戸の春を告げるいかなご漁も始まり
3月1日　深夜　春一番が吹き荒れ、待ち兼ねた春はもうすぐそこに
神戸の春の到来です

2018 Walk
03

【 2018春 写真アルバム 】

春の嵐が吹き荒れた翌日の“物好きWalk”

2018．3.21.午後 by Mutsu Nakanishi「」

妙法寺から須磨アルプス東端の東山を超えて、南の板宿へ歩く

春の嵐が吹き荒れた翌日 まだ、強い風が吹く寒い３月21 日 妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く。 目的はいっもすっきり見えぬ大阪湾対岸の二上山が見えるかもと
また、東山から板宿へ下る古道は椿の道 昨日の大風で、落下した椿が道を敷き詰めているのをイメージして。
そんな期待をこめて、まだ、不安定な天候の中、ちょっとした晴れ間に、妙法寺の駅からまっすぐ須磨アルプスの東端東山を目指す。
風と弱い雨がまだ残り、時折晴れ間がのぞく、曇天の中の“小さな春を探すもの好きwalk“です。
でも、この１年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を見ることができました。
また、イメージしていた椿の道にも出会え、うれしい小さな春をみつけました。 2018.3.21.夕

1. 妙法寺駅から南へ　横尾道の西六甲縦走路・東山登り口から東山へ

妙法寺駅の南　須磨アルプス(東山 - 馬の背ー横尾山)の北山腹を巡る散策路　横尾道より　　2018.3.21.

視界が開けぬ隼人氏の中　ジグザグながら、東山の北山腹を頂上まで登る急な階段道が続く

東山登山道から眺める北西側名谷ニュータウンから北東側高取山周辺の景色

階段道を登り切って、頂上近く岩場に出ると、西に荒々しい須磨アルプスの姿が見える

岩場の北側を回り込みながら南へ登りきると東西に延びる西六甲全山縦走路が稜線に延びる東山頂上山南の海岸側がぱっと開け、大阪湾　西に　須磨アルプス馬の背の景観が広がっている

須磨アルプス　馬の背の岩稜の稜線縦走路　陽が照っていないので余計にくっきりと見える　　東山の頂上より　2018.3.21.

2.　須磨アルプス東山の頂上から大阪湾の展望

葛城山・水越峠・金綱山と続く金剛連山ははっきり見えるのですが、連山の左端の二上山やその左にある生駒山は煙っていて　残念ながらよく見えない。ところが、刻々と変化する天候の中で、薄っすら二上山が薄っすら見えてきた。　この１年　縦走路に出るといつも探していた二つこぶの二上山が　念願かなって　やっと見られた。

ほかにも、紀淡海峡に浮かぶ友ヶ島がくっきりと。
また、神戸の市街地もいつもに増してくっきり見えて、春の嵐の効果は絶大です。

二上山の左には信貴・生駒野兼山も見え、二上山の背後には、三輪・巻向の山並み?　また、特定はできませんでしたが、金剛連山の後ろには　大峰の山々も見えていたのだろう。ホント　ラッキー。登ってきたかいがありました。

3. 東山から南の板宿への尾根筋道・椿の道を下る

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道　　2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道　　2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿へ下る椿の道
冬枯の淋しい風景に際つ白赤い花が落ちている。　2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道　　2018.3.21.

4. 椿の道・椿のトンネルを抜けると眼下に板宿の街　人家はないが、里道に

もう　山桜が咲きだしている。先日　ここを歩いた時　満開に見えた道脇の桜はもう散り始めていました。
ここは南面の明るい場所で随分暖かいのだろう。　板宿の街はもうすぐ下である。
人家はないが、あかるい里道に　2018.3.21.

前回通った時に、花いっぱいつけていた桜がもう散っていました　ここは随分暖かいようだ　2018.3.21.

春の嵐が吹き荒れた翌日　まだ強い風が吹く寒い３月21日
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて南の板宿へ。
時折晴れ間がのぞく、曇天の中の“もの好きwalk“です。
でも、この１年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を
見ることができました。
また、イメージしていた椿の道にも出会えました。
うれしい 小さな春です。

妙法寺横尾道より、須磨アルプスの東端　東山を眺める　2018.3.21.

春の嵐が吹き荒れた翌日　まだ、強い風が吹く寒い3月21日
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く。
目的はいっもすっきり見えぬ大阪湾対岸の二上山が見えるかも····
また、東山から板宿へ下る古道は椿の道
落下した椿が道を敷き詰めているかも···
そんな期待をこめて、ちょっとした晴れ間に、妙法寺の駅からまっすぐ
須磨アルプスの東端東山を目指す。
風と弱い雨がまだ残り、時折晴れ間がのぞく、曇天の中の"もの好きwalk"です。
でも、この1年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を見ることが出来た。
また、イメージしていた椿の道にも出会えました。
うれしいかぎり、楽しかった。　2018.3.21.夕

様尾団地 椿谷から眺める須磨アルプス　左:東山　中央:馬の背　右:横尾山

横尾団地　椿谷から眺める須磨アルプス東端　東山　2018.3.21.

横尾道から　東山・六甲縦走路登り口へ　2018.3.21.

妙法寺 横尾道から　東に高取山を眺める　2018.3.21.
後ろ　鵯越の向こうに菊水山・摩耶山が見えている

妙法寺 横尾道で　2018.3.21

横尾道　東山・六甲縦走路登り口　2018.3.21.

東山・六甲縦走路への登山道　ジグザクに山腹をほぼ直登　2018.3.21.
妙法寺からは東側にもう一本　東側から登る登山道がある

東山の北山腹から北西　名谷のニュータウンの奥に
高御位山が見えている　2018.3.21.

東山の北山腹から東に　樹木越しに高取山の頂上が見える　2018.3.21.

東山の北山腹の登山道　後半はほとんどが階段状の登山道　2018.3.21.

東山の北山腹より　高取山から続く西六甲の山並　2018.3.21.
今日は風もあり、良く澄んで遠望が効く　山頂での展望が期待できる

東山山頂まじか　北山腹を一旦東に巻いて、そこから頂上へ　2018.3.21.

東側から再度階段の急な登り　この上で一旦視界が開ける　もうすぐ頂上
2018.3.21.

登りきった所は視界の開けた岩場　2018.3.21.
岩場に立つと西に馬の背から岩稜がそそり立つ横尾山が見える

岩場に立つと西に馬の背から横尾屋山へと続く荒々しい稜線尾根　2018.3.21.
そそり立つ横尾山が見える　須磨アルプスの核心部である

東から登った岩場の北端から左へ岩場を登る　2018.3.21.

岩場の西北端から眺める東山山腹北側の景色　2018.3.21.

南へ続く道を登れば　まもなく東山頂上である　2018.3.21.

須磨アルプスの東端　東山頂上　正面が南　海岸側　2018.3.21.
道標の左側で西六甲の縦走路に合流　右に馬の背・横尾山　左に高取さんへ

東山頂上から眺める横尾山　と　左奥　栂尾山　2018.3.21.

昨夜の風が残って目まぐるしく変わる天候ですが、靄が吹っ飛んで澄み渡る
東山頂上から眺める南の海岸線　期待通り　紀淡海峡がくっきりと　2018.3.21.

東山頂上から眺める西南側　馬の背・横尾山から鉄拐・旗振山・鵯伏山と続く西六甲の西端

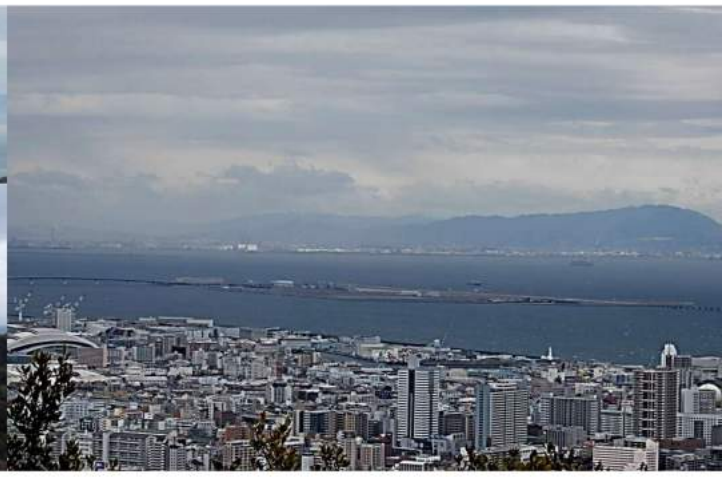
東山頂上から眺める北東側　高取山から西六甲の山並みが続く　2018.3.21.

樹木に囲まれた狭い頂上の東山の頂上部　2018.3.21.
南側すぐ下から見える絶景ポイント　須磨海岸・大阪本を中心とした大展望が広がる

大阪湾の対岸に二上山を探す　右端に葛城/金剛山の鞍部水越峠が見えるのですが、
いつもと同じ　二上山周辺はもやってよく見えぬ。今日もダメかと…2018.3.21.

小雨混じりの強風が吹き荒れる中　馬の背に一人　人影が見える　2018.3.21.

東山頂上から眺める南の海岸線　西六甲の西端の山々の奥
淡路島と和歌山に挟まれた紀淡海峡がくっきりと　2018.3.21.



目まぐるしく変わる天候　大阪湾沿岸を眺めている間に神戸市街・神
戸空港の向こう対岸の連山の中に　ひょっこりの二上山が見えだした
2018.3.21.

大阪湾沿に浮かぶ神戸空港の向こう対岸の連山の中に
ここ1年　はっきりした姿をとらえられなかった二上山が見えだした　2018.3.21.

須磨アルプス東山から葛城連山　二上山遠望　2018.3.23.

須磨アルプス東山から　葛城連山　二上山遠望　2018.3.23.
やっとみられたうれしい姿です

須磨アルプス　東山から馬の背・横尾山の稜線尾　2018.3.23.

須磨アルプスの東端　東山頂上　正面が南　海岸側　2018.3.21.
道標の左側　西六甲の縦走路を　東へ高取山・板宿へ下る

東山頂上から樹木の中　高取山へと続く縦走路を東へ　板宿へ下る　2018.3.21.

東山頂上から樹木の中　高取山へと続く縦走路を東へ　2018.3.21.

東山頂上から樹木の中　高取山へと続く縦走路を東へ　2018.3.21.

東山頂上から樹木の中　高取山へと続く縦走路を東へ　2018.3.21.
東山送電鉄塔展望台周辺

東山送電鉄塔から下へ下る細い尾根道の両側にはちょっと遅かったのですが、
赤い花をいくつも付けた椿が生い茂り、登山道にも幾つも赤い花が落ちている。
椿の向こうには高取山の頂上が見え、随分もう下ったと。

東山送電鉄塔から下へ下る細い尾根道は椿の道
昨夜の激しい風雨に幾つも赤い花が落ちてい。
2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿下へ下る尾根道は椿の道
昨夜の激しい風雨に幾つも赤い花が落ちている。 2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.

東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道　2018.3.21.

椿の道を抜けると視界が開け、海岸部の街が見える
2018.3.21.

椿の道を抜けると視界が開け、海岸部の展望
2018.3.21.

また、林の中に入り、板宿神社への道をたどる。
また、人家はないが、あかるい里道に　2018.3.21.

もう　山桜が咲きだしている。
そして先日満開に見えた道脇の桜はもう散り始めていました。
ここは南面の明るい場所で随分早くから花が咲いた
人家はないが、あかるい里道に　2018.3.21.

春2018 小さな幸せ探して
2018. 3. 12.　暖かい日差しの午後　桜?満開の山道で　東山/板宿の下りで

満開の寒桜　須磨アルプス 東山から板宿への下り道で　2018. 3. 12.

2018. 3. 12.　須磨アルプス 東山から板宿への下り道で

人家はないが、あかるい里道には　もう山桜が咲き始めていました　2018.3.21.

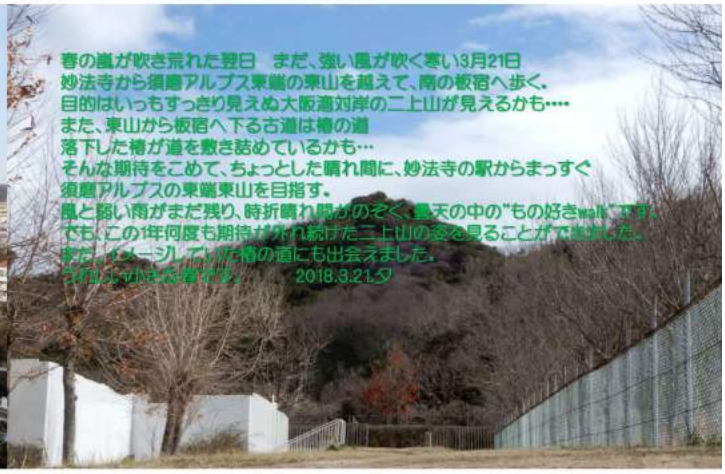
東斜面へ尾根を下れば、斜面の中腹にある板宿八幡
板宿の街へおりてきました　2018.3.21.

斜面の中腹にある板宿八幡　板宿の街へおりてきました
2018.3.21.

斜面の中腹にある板宿八幡神社　2018.3.21.

板宿八幡神社からながめる板宿の街　2018.3.21.

板宿八幡神社からながめる北東側の高取山　2018.3.21.


春の嵐が吹き荒れた翌日　まだ、強い風が吹く寒い3月21日
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く。
目的はいっもすっきり見えぬ大阪湾対岸の二上山が見えるかも‥‥
また、東山から板宿へ下る古道は椿の道
落下した椿が道を敷き詰めているかも…
そんな期待をこめて、ちょっとした晴れ間に、妙法寺の駅からまっすぐ
須磨アルプスの東端東山を目指す。
風と弱い雨がまだ残り、時折晴れ間がのぞく、曇天の中の"もの好きwalk"です。
でも、この1年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を見ることができた。
また、イメージしていた椿の道にも出会えました。
うれしいかぎりです。　　2018.3.21.夕

春の嵐が吹き荒れた翌日の"物好きWalk"
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く
2018.3.21.午後　by Mutsu Nakanishi
大阪湾全体を見渡せるチャンス
また、東山から板宿へ　イメージ通りの椿に覆われた椿の道
「山道をたどれば、何かある」　物好きwalk
満足一杯。　今日は祝杯だと。
2018.3.21.　板宿から妙法寺へ　神戸三木線を歩きながら

小雨混じりの強風が吹き荒れる中　峠の背に一つ　人影が見える　2018.3.21.

大阪湾沿に浮かぶ神戸空港の向こう対岸の連山の中に
ここ1年　はっきりした姿をとらえられなかった二上山が見えだした　　2018.3.21.

【2018 年春のPhoto アルバム】

2018 Walk 04

古代たたらの郷　西播磨「佐用」の春　2018　　2018.3.31

春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜　漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました

1．　漆野 光福寺一本堂の一本桜　大イトザクラ
2．東徳久カタクリの里殿崎のカタクリ
3．旧三日月町　弦谷のカタクリ
4．旧三日月町　志文川の桜堤

愛らしい春の妖精「カタクリの花」
花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
陽が陰り始めた山の斜面で
まだ冷たい風に立ち向かって身をふるわせる
私の一番好きな花の一つ

街や村の近くで、そっと寄り添い
見守ってきた「一本桜」
一本だからこその青空に映る美しさ
堂々とした姿にも　思い入れがある
「一本桜」への思いも　ひとそれぞれ
ドラマがある

春の訪れを待ちかねて
毎年　千種川が流れ下る　西播磨の古代たたらの山郷佐用へ
出会いに行く「カタクリの花」と「一本桜」
今年も出会えてうれしい2018 年の春　　元気をもらって　思いも新た

2018．４月　　Mutsu Nakanishi

満開の桜が彩る山崎断層を抜けて切窓峠を越えて山郷佐用へ 2018.3.31.

今年は春の花が例年になく一機に咲いて
「三春どころか四春??・五春??」に
神戸の桜満開　随分早い猛スピードの春に、
　昨年より随分早いのですが、春の妖精
「カタクリ」と満開の桜が彩る千種川沿い
の古代たたらの山郷を訪ねました。

今年は家内の運転で　満開の桜が彩る山崎
断層を抜け切窓峠を抜けての山郷佐用への
ドライブでした。
春の到来　待ちかねた古代たたたらの里
千種川が流れ下る山間　徳久殿崎 & 旧南光町鶴谷に咲く春の妖精「カタクリの花」と満開の花をつけた枝を大きく広げて、集落を見守る立堂々とした姿に魅了される佐用光福寺一本堂の一本桜の「大糸桜」の元気な姿　届けます。
毎年楽しみな２０１８年　佐用の春のアルバムです。

１．　漆野 光福寺一本堂の一本桜　大イトザクラ

千種川の下流側から左手　漆野本村への入口の郷を眺める　2018.3.31

下野から千種川は山間を大きく西へ　カーブして、佐用徳久地区に入る。
中国道の高架橋をくぐると漆野の集落。東の本村と西の段集落が川の両側に。
大糸桜のある本村の集落は奥の山の中に隠れている。どんな姿で大糸桜が迎えてくれるのか、期待がいっぱい。
川岸から本村の集落に通じる谷あいを回り込む狭い曲がりくねった坂道を少し登ると視界が広がり、集落の中へ。高台集落の一番奥の高台に光福寺があり、満開の花をつけた大糸桜が見えた。一年ぶりの出会いです。

集落への狭い道を集落に入ってすぐ、家並みの中右手高台に光福寺が見え、満開の花をつけた大糸桜の美しい姿が見える。

佐用 千種川が流れ下るたたらの里　漆野の一本桜
播磨一本堂(光福寺)の大糸桜　佐用町　東徳久　漆野

古代から開けたたたらの山郷 宍粟と佐用を結ぶ県道53号の街道筋。
下三河のT字路から、北の千種から南へ三河谷を流れ下る千種川沿いに　少し西へ入った旧南光町東徳久地区の漆野。
その本村地区にある光福寺は1696年に再建された時に1本のケヤキから建てられたため、近隣の人たちから「播磨一本堂」と呼ばれるようになった。

この再建を記念して境内に植えられた枝垂れ桜は、樹齢300年、根回り8m、高さ13mで、毎年春になると、枝一杯に糸を垂らしたような花姿で、鐘楼を包み込むように花を咲かせる。
その姿は華麗　幻想的で「播磨一本堂の大糸桜」と呼ばれる西播磨一の一本桜となった。特に垂れ下がった枝の長さがひときわ美しい。

千種川が流れ下るこの漆野周辺は古代のたたら製鉄地帯で、早くから開けた街道筋。春になると漆野集落で満開の花をつけ、華麗な姿を見せる糸桜はこの街道筋・漆野集落のシンボルであり、誰言うとなく「播磨一本堂の大糸桜」と呼ばれ、親しまれ、今もこのたたらの山里・街道筋のシンボルとして守り継がれている一本桜である。
毎年春　カタクリの花が咲く頃　山郷佐用を訪ねるうちに、この糸桜の美しい姿に出会い、春佐用を訪ねる楽しみの一つとなりました。
もっとも　カタクリと漆野の大糸桜が満開の花をつける時期が異なり、両方を一気に見られることは少ないのですが、
今年もまた、満開の素晴らしい大糸桜の姿を見ることができました。

古代たたらの里に咲く一本桜
佐用漆野　播磨一本堂(光福寺)の大糸桜

2. 東徳久カタクリの里殿崎のカタクリ

漆野から南へ下って、上流側の下野・漆野　たたらの郷を流れ下ってきた千種川　　2018.3.31.

漆野から千種川に沿って　山間を少し下ると、南北を山に挟まれて、千種川の南側の可岸段丘に田園が広がる徳佐の中心部。その入口 千種川と山に挟まれた狭い場所に広がる殿崎の集楽で狭い集落内の道を抜けた山裾の傾斜地に、カタクリの群生地が広がっている。

交通の便が悪いので、あまり知られていないカタクリの郷。それだけに静かで、ゆっくりカタクリの花に出会える好きな場所。昨年は訪れた時期が遅れ、元気に咲くカタクリが少なかったのですが、今年はどうだろうかと期待一杯で、千種川沿いを下る。

殿崎の南　徳久 林崎から上流側　殿崎の山裾を眺める　　2018.3.31.

殿崎のカタクリの群生地　2018.3.31.

集落のすぐ横の山裾斜面に広がる殿崎のカタクリの群生地全景　2018.3.31.

誰も姿が見えず、一瞬今年もおそかったのか・・・・と不安にかられましたが、日陰になった奥の斜面地に紫色のカタクリの花が斜面一杯に広がり、近寄ると

まっすぐ立ち並んで、春の風に身を震わせているのが、まじかに見える。

うれしい出会いです。

殿崎のカタクリの群生地　201

殿崎のカタクリの群生地　2018.3.31.

春の妖精　カタクリの花
8 年間地中で暮らして、花を咲かせる。
氷河期の生き残りの花
花言葉は 初恋・寂しさに耐える

わたしにはもう一つ
春まだ冷たい風に　真っすぐ顔を向け、
身を打ち震わせて、立ち向かう姿に
心ゆさぶられ、一番好き
毎年元気をもらうカタクリの花
今年も沢山のカタクリの花に出会えました

カタクリの花に近寄って　カメラを向けている人によると、
「カタクリの花の花弁の中に桜の花が潜んでいる。
その姿が一番美しく、それを狙って、カメラを向ける。
カタクリに春を見る」と聞く。
模様があるのは知っていましたが、その模様を桜とみるのは知りませんでした。
後で、知ったのですが、「蜜標」と呼ばれ、蜜のありかを虫に教えるためとされる模様で　桜の花の形とみたてるという。
初めて聞く話にカタクリの花をのぞき込む。そういわれれば、花弁の中の模様が桜にみえる。
昨年夏　京都虫の眼展　可視光領域が狭く、赤がよく見えない虫の眼。　虫は花粉などの色がよく見え、
それに導かれて、密にたどり着くと知りましたが、この「密標の桜」虫たちにはどんなふうに見えているのでしょうか??? おそらく　花の奥に潜む「桜の花」がくっきり見えて、「密」に導かれるのだろう。
また、ひとつ新しい見方を教えてもらいました。

佐用のカタクリの里　徳久殿崎の春の妖精「カタクリの花」2018

殿崎のカタクリの群生地　2018.3.31.

殿崎のカタクリの群生地　2018.3.31.

殿崎のカタクリの群生地　2018.3.31.

殿崎のカタクリの群生地　2018.3.31.

殿崎の里巡れば花かたくり

山の斜面を埋め尽くす元気なカタクリ。
今年は元気で美しい姿のカタクリにたくさん出会えた。
また、来年と声をかけて　群生地をあとにする。

殿崎から千種川沿いに少し下ると、毎年夏　ひまわり畑が作られる広い河岸段丘　徳久林崎の若鮎ランド。

この林崎から、南側の山並みにある卯の山峠を越えれば、西で千種川と合流する志文川が流れ下る旧三日月町地区。

目指すカタクリの里　弦谷　そして志文川に並行して姫新線が走る有名な写真スポットの桜堤がある。

弦谷のカタクリの里の山裾では　食事ができないので、桜満開の田園風景が広がる林崎若鮎ランドの千種川桜堤で昼食に

佐用徳久　林崎　若鮎ランドの千種川　桜堤で　2018.3.31.

3．旧三日月町　弦谷のカタクリ

うれしい2018年春の佐用のカタクリwalk　毎年たずねるもう一つの群生地　弦谷へ
林崎から東へ卯の山峠を越えして旧三日月町へ志文川が流れ下る旧三日月町　カタクリの里弦谷
そしてそのすぐ近く志文川の桜堤へも寄ってかえろう

林崎から南へ　旧三日月町むへ山越えの卯の山峠　2018.3.31.

林崎から南へ　旧三日月町むへ山越えの卯の山峠　南に志文川沿いの桜堤が見えているが、峠を下って、山に隠れている左側に折れて、志文川を渡って、正面に見える山並みの入口のところが、カタクリの里弦谷である。

タクリの群生地　旧三日月町　弦谷　2018.3.31.

三日月に入って　姫新線に沿って東に向かい、三日月のＴ字路で、南へ志文川を渡り、スプリング８のある光都・相生へ向かう山越えの幹線道路の山間へ入る入口。川の右手住宅の奥の山裾の山の斜面の雑木林が群生地である
毎年春　佐用のカタクリの花を訪ねるところ。
午後には日陰になる急な傾斜地。冷たい風に身を震わせて立ち向かう姿が美しい一番の地。
今年はどんな姿のカタクリにであえるだろうか・・・・・

ひっそりとした傾斜地の山影で、春まだ冷たい風に　真っすぐ顔を向け、身を打ち震わせて立ち向かう
弦谷のカタクリの姿に　毎年元気をもらう　一番好きなカタクリの姿です

佐用のカタクリの里　旧三日月町弦谷の春の妖精「カタクリの花」2018

弦谷の群生地で　数株しかみられぬ白いカタクリの花
今年はであえるだろうか? どうだろうかと斜面を探す。
元気に風に立ち向かっている姿を見ることができました。
出現率　一万分の一程度だという。
ことしもうれしい出会いです。
本当に今年はラッキー　数多くの元気な姿に出会えました。

カタクリの群生地　旧三日月町　弦谷　2018.3.31.

カタクリの群生地　旧三日月町　弦谷　2018.3.31.

カタクリの群生地　旧三日月町　弦谷　2018.3.31.

4．旧三日月町　志文川の桜堤

弦谷から、そのまま南へ山を抜ければ、光都を通って、竜野・相生へ抜けられるのですが、志文川沿いの桜も見たくて、志文川沿いに戻る。
お目当ての場所は、昨年念願の並走する姫新線と志文川土手の桜堤の写真が撮れた、志文川沿い久保橋横の末広踏切。
佐用の桜の写真スポット。

今年もそんな景色を期待して行ったのですが、上下の電車が通過したところで、２時間近く待たねばならないと聞き、あきらめ、志文川土手の桜堤を散策して、戻ることに。

愛らしい春の妖精「カタクリの花」
花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
陽が陰り始めた山の斜面でまだ冷たい風に
立ち向かって
身をふるわせる　私の一番好きな花の一つ
街や村の近くで、そっと寄り添い見守って
きた「一本桜」もまた、思い入れがある
「一本桜」への思いもひとそれぞれ
ドラマがある

春の訪れを待ちかねて　出会いに行く「カタクリの花」と「一本桜」
今年も出会えてうれしい2018 年の春　　元気をもらって　思いも新た
また、来年です

2018.4 月　　西播磨　佐用　弦谷から南へ　車を走らせながら

Mutsu Nakanishi

【スライド動画】 & 【Photo アルバム】

神戸　2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.5.3.

2018 年春　まだ４月に入ったばかりというのに、満開の桜が散ると野山も街も一斉に芽吹いて新緑に衣替え。
今年の春は三春どころか四春・五春。
あれよ　あれよと猛スピードで春が駆けてゆく。
地球環境の激烈な変化が我が身に迫る。すごいことがおこっているなぁと感じる 2018 年春 神戸の我々にとっては初めての経験。でも毎年春を待ちかねる北国や信州ではこんな具合なのかと。
年々早くなる春に戸惑いを感じ、何となくめいっぱい喜べないような気分もちょっぴり。
でも　待ちかねた春　今年も神戸の春　新緑をたのしまねばと毎日 good Day Now と風来坊
猛スピードで駆け抜ける 2018 年春の絶景をスライド動画と Photo アルバムにしました。

神戸　2018 年 過ぎ行く春の Photo Album　2018.4.27.　File 収蔵サイト

- ◆ 【スライド　動画】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.mp4
- ◆ 【Photo アルバム】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.photo.pdf

≪参考≫　シャクナゲ 2018 森林植物園　石楠花谷　2018.4.27.　File 収蔵サイト

- ◆ 【スライド　動画】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunage2018.mp4
- ◆ 【Photo アルバム】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunagephoto.pdf

毎日の walk のなかで　毎年の春景色と共に気が付かなかった絶景や昨年は見られなかった景色にも幾つか出会うことができました。年々季節の感覚が狂って、その振幅が大きくなっている春の訪れ。
歳と共に年齢からくね感覚も加わって、今年は特に素直に春爛漫を喜んでおられぬ思いをふっと感じています。
でも　毎年この時期に作る身勝手な神戸の春のアルバムですが、私にはうれしいアルバム。
毎日　Good Day Now　今を元気にと。　2018.5.3.　from From Kobe　　Mutsu Nakanishi

1. 4.10　久しぶりに神戸の街にでて、諏訪山レインボーブリッジに登る
　若者のデートスポットですが、久しぶりに神戸の街が眼下に広がる
2. 4.14.　穏やかな春の午後　鉄拐山より大阪湾が一望　穏やかな須磨浦の海に潮目がくっきり見える
　須磨の春　春の海ひねもす　のたりのたりかな
3. 4.20.　新緑に包まれた姫路城　新緑の中を舞う白鷺のごとし　緑のトンネルの中を歩く
　鉄鋼マンとしての出発をした若者たちの一群が写真を撮っているのであう。
　わたしにも昔こんな時代があったと懐かしく　若者たちにエールを送る
4. 4.23　自覚の角先も真っ赤なポピーが咲いて　華やかに　いつもの春の角先に
5. 4.27.　シャクナゲ 2018 盛りが過ぎたかと心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
　今年も新緑の谷を埋め尽くす日本シャクナゲ　新緑の中に咲くハンカチの木や
　ドウダンツツジにも出会えました。
　谷の上部のホソバシャクナゲはいつもはこれからという時期ですが、ちょうど盛り
　ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書く。これは山口の「特牛・コットイ」級の難読や
6. 4.27.　東播磨吉川の黒滝三木市吉川町の美嚢川幅一杯　幅 30m、落差 4m の滝　）
　東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる
　こんな美しい滝「黒滝」がある。水辺が恋しくなってきた矢先、初めてたずねました
7. 5. 1.　さわやかな五月の風に横尾道　のじぎくの丘の大空を泳ぐこいのぼり
8. 5. 3.　５月の連休はいつものごとく家で休養
　待ちかねたアグロステンマの花が咲いて　５月の角先・庭に掉尾を飾るバラの香りが漂う
　薫風５月　Good Day　今日も元気に　孫たちも帰ってのんびりと

石楠花　四月の初めというのにもう満開に
2018. 4. 5.　白川台で

石楠花　四月の初めというのにもう満開に
2018. 4. 5.　白川台で

正面に兵庫県庁を中心に神戸の街と神戸港
再度山ドライブウェイ　諏訪山　レインボーブリッジ　2018. 4. 10.

2018. 4. 10.　諏訪山　レインボーブリッジより　元町・三宮南部界隈　奥に港島が見える

2018. 4. 10.　諏訪山 レインボーブリッジから眺める神戸の街

春　鉄拐山から眺める神戸の街と大阪湾遠望　2018.4.14.　鉄拐山より

明石海峡　須磨浦　潮目が見える須磨の海　2018.4.14.　鉄拐山より

春の須磨浦　ゆったりと潮が流れ　潮目がみえる　2018.4.14.　鉄拐山より

春の須磨浦をゆったり　潮が流れる　2018.4.14.　鉄拐山より

春の須磨浦をゆったり 潮が流れる　2018.4.14.　鉄拐山より

南側正面から眺める国宝姫路城　2018. 4. 20.
青空をバックにそびえ立つ姿は本当に美しい

久しぶりに姫路城の北側　県立歴史博物館へ資料をもらいに出かけました。
南側は観光客でいっぱいですが、北側は新緑に包まれた落ち着いた空間
お城を見上げながら、お堀端をぐるりと一周　散策を楽しんで帰ってきました
2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城の北側　散策路2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城　北側の散策路より　2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城の北側　散策路2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城の北側　散策路2018. 4. 20.

お堀を巡る船が運行されていました
お城の大修理が完成して　姫路城の周りも大変貌
国宝姫路城と共に　姫路の街が大変貌
街の発展には　目を瞠る　2018.4.20.

国宝 姫路城　2018. 4. 20.　南側正面より

姫路城の南側正面に戻るとこんな光景も
2018. 4. 20
新日鐵住金(広畑)の新入社員たち
わたしにも昔こんな時代があったと・・・
懐かしく　若者たちにエールを送る

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

石橋花谷に入ってすぐ、石橋花の花のトンネルの上に、
ハンカチの木が花をつけていました。2018. 4. 27. 六甲森林植物園

花を一杯つけたハンカチの木　2018. 4. 27. 六甲森林植物園

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

ホソバシャクナゲは　例年　まだ蕾か多い4月末
今年は満開に近い。
谷の上斜面に植樹が進められてきた効果でしょうか
今年はホソバシャクナゲの花が谷の上部一帯がを埋め
尽くしていました。
2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

清純な色合いが魅力の日本シャクナゲ
今年も新緑の谷を埋め尽くす美しい姿に出会えました
今年は特にホソバシャクナゲが満開でラッキーでした

でも　季節感をじっくり味わう水見もない今年の春の
スピードにはびっくり。
地球環境の変化をわが身にひしひしと感じる2018年春です

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

新緑の森　森林植物園　散策

森林植物園内南のシアトルの森では西洋シャクナゲが花をつけ、
すぐ横のドウダンツツジも数一杯に白いゆをつけているとの案内
森林植物園　新緑に包まれた森の午後　散策を楽しむ。

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

新しい発見!!

ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書くんだ
何年も春の白い花・秋の紅葉と
何年も出会って来て　初めて知りました
「ドウダン」は　「灯台」　「躑躅」　「ツツジ」
若夜間の明かりに　用いられた　「灯台」の格好
似ているから　その「ドウダン」から　名付けられたの
だそう。

新緑の淡い緑の中　小さな白い花が重なり合って、
新緑に素晴らしい濃淡をつける。
新緑の中でも一番気に入っているドウダンツツジ
今年も健在でした

ドウダンツツジ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口

ドウダンツツジ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

西洋シャクナゲ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　シアトルの森で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

シャクナゲ2018　森林植物園石楠花谷

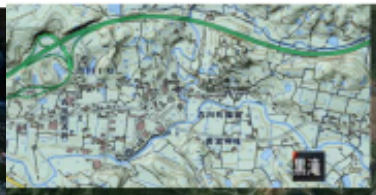
猛スピードで駆けてゆく2018年の春
ちょっと盛りが過ぎたかと著と心配しながら、森林植物園　石楠花谷へ
アズマシャクナゲやツクシシャクナゲは少し盛りを過ぎていましたが、
谷の上部のホソバシャクナゲはちょうど盛り
今年も新緑の中に咲く日本シャクナゲの美しい姿に出会えました。
また、新緑の中に咲くハンカチの木やドウダンツツジにも出会えました

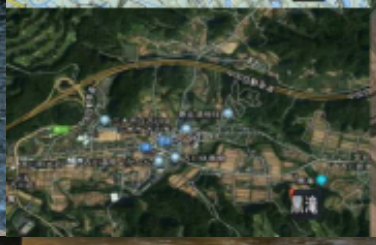
東播磨吉川の黒滝　2018.4.27.

（三木市吉川町の美嚢川に7かかる幅30メートル、落差4メートルの滝　）

東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に
落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる　こんな美しい滝「黒滝」がある
暖かくなって　秋の初が恋しくなってきた矢先、初めてたずねました

四季折々　山あいに広がる田園地帯　郷の景色が見たくなると、
北の丹上山を越えて瀬河から　山田路の里吉川(三木市吉川)へ
原チャリを走らせる。
そんな田園地帯の中に　美しい滝があるのを初めて知りました。
それも　よく知る　中国自動車道吉川ICや日帰り温泉「よかたん」のすぐそば
東西に広がる吉川の里の中央を流れ下る美嚢川の川幅一杯にかかる滝
初めて　行きました。





中国自動車道吉川ICのすぐ東
県道17号沿い美嚢川にかかる黒滝

2018. 4. 27.　東播磨吉川の黒滝

2018.4.27.　東播磨吉川の黒滝

美嚢川南岸の丘より眺める黒滝　2018. 4. 27.

2018. 4. 27.　東播磨吉川の黒滝

2018. 4. 27.　東播磨吉川の黒滝

2018. 4. 27.　東播磨吉川の黒滝

美蓑川南岸の丘より眺める黒滝　2018. 4. 27.

美蓑川南岸の丘より眺める北側吉川の里　2018. 4. 27.

帰り道　吉川から南へ山越えした淡河町僧尾の里で
美しいレンゲ畑を見つけました
今年一番のレンゲ畑です　2018. 4. 27.

淡河町僧尾の里のレンゲ畑　2018. 4. 27.

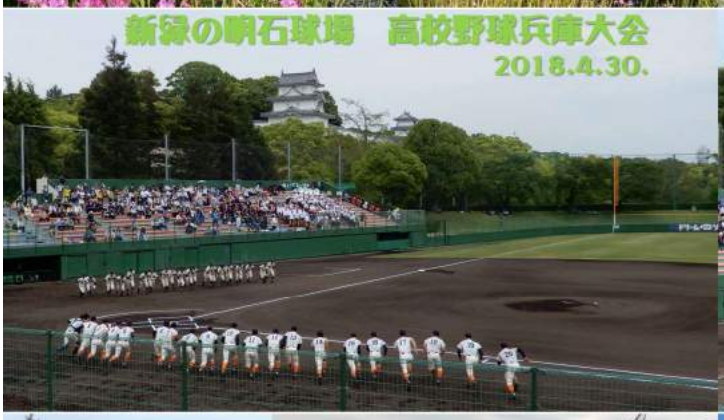
淡河町僧尾の里のレンゲ畑　2018. 4. 27.

東播磨吉川の黒滝

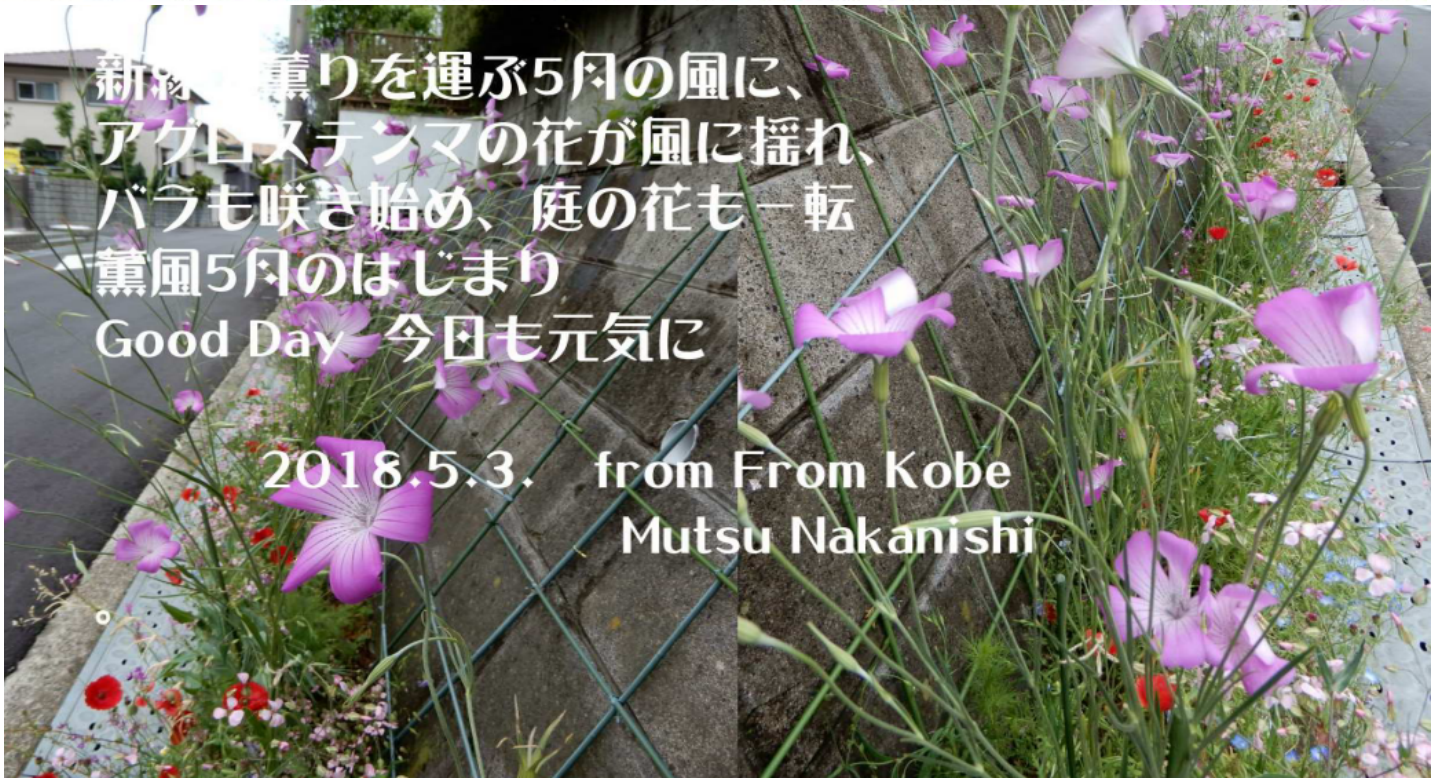
豊かな水で結ばれた吉川の田園地帯の中にある「黒滝」
（三木市吉川町の美蓑山にかかる幅30メートル、落差4メートルの滝　）

田園が広がる「山田錦の里吉川」の街中の田園に埋もれてひっそりと
落差はいさいが川幅一杯に流れ落ちる美しい滝「黒滝」がある。
吉川のナイアガラといわれそうですが、それほどでもなし。
でも、田園地帯を川幅一杯に広がる滝　堰堤から見間違う滝ですが、
川の中の岩にとってましかまで、近づける滝　おかげでいろんな写真が取れました。
今回はよっぽどの事情にはつらまらなかったが、四季折々訪ねる神戸の北の田舎
ならではのスポットが多くあります。
黒滝のレンゲ畑は、この春の嬉しい出会いでした。
昨日、まるでみえなかったが、今回は出会えずでした。
「神戸に有馬街道小野ルート」を東京都稲城園の石榴花谷を訪ね、
千歳　黄金から円山山麓を吉川への北神戸田園を巡る県チャリwalk。
2018年度の新緑を一日満喫できました。
2018. 4. 27.　夕　美蓑山麓美蓑川　眺えながら帰りました。

新緑の明石球場　高校野球兵庫大会
2018.4.30.



2018. 5. 1.　横尾道　野路菊の丘で



続いて次のページに　石楠花2018の掲載スライドPhotoを再度集めています

新緑の六甲森林植物園　2018.4.27

シャクナゲ2018　森林植物園石楠花谷

猛スピードで駆けてゆく2018年の春
ちょっと盛りが過ぎたかと著と心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
アズマシャクナゲやツクシシャクナゲは少し盛りを過ぎていましたが、
谷の上部のホソバシャクナゲはちょうど盛り
今年も新緑の中に咲く日本シャクナゲに出会えました。
また、新緑の中に咲くハンカチの木やドウダンツツジにも出会えました

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷入口で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷入口で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

石楠花谷に入ってすぐ、石楠花のトンネルの上のハンカチの木
今年も枝一杯に花をつけた姿が見られました。2018. 4. 27. 六甲森林植物園

花を一杯つけたハンカチの木　2018. 4. 27. 六甲森林植物園

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

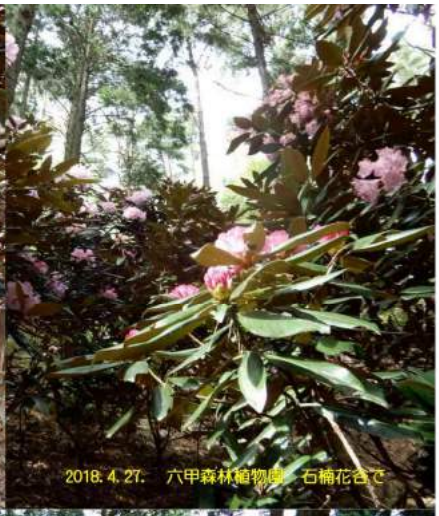
ホソバシャクナゲは、例年4月末にはまだ蕾が多いのですが、今年は満開に近い。
谷の上斜面に植樹が進められてきた効果でしょうか
今年はホソバシャクナゲの花が谷の上部一帯を
埋め尽くしていました。

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で



2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

清純な色合いが魅力の日本シャクナゲ
今年も新緑の谷を埋め尽くす美しい姿に出会えました
今年は特にホソバシャクナゲが満開でラッキーでした

でも　季節感をじっくり味わう余裕もない今年の春の　　ス
ピードにはびっくり。
地球環境の変化をわが身にひしひしと感じる2018年春です

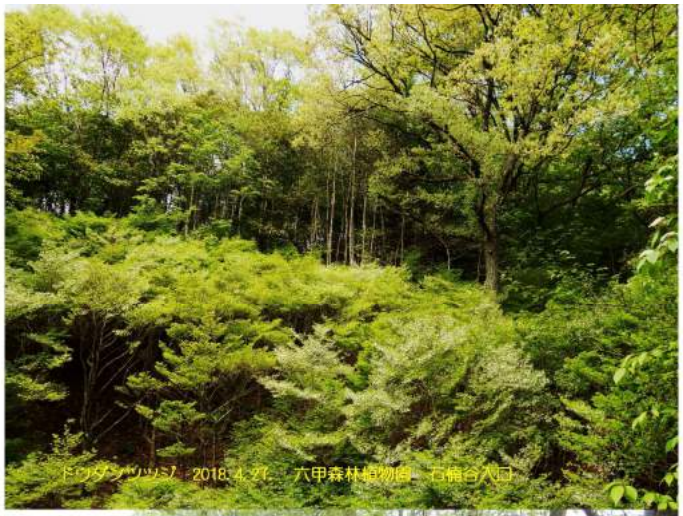
2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

ドウダンツツジ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口



ドウダンツツジ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

西洋シャクナゲ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　シアトルの森で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　シアトルの森で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　入口前

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

新緑の六甲森林植物園　2018.4.27

シャクナゲ2018　森林植物園石楠花谷

猛スピードで駆けてゆく2018年の春
ちょっと盛りが過ぎたかと若と心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
アズマシャクナゲやツクシシャクナゲは少し盛りを過ぎていましたが、
谷の上部のホソバシャクナゲはちょうど盛り
今年も新緑の中に咲く日本シャクナゲの美しい姿に出会えました。
また、新緑の中に咲くハンカチの木やドウダンツツジにも出会えました

2018 Walk
05

Country Walk【17】2018

【スライド動画】 ＆ 【Photo アルバム】

神戸　2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.5.3.

2018 年春　まだ４月に入ったばかりというのに、満開の桜が散ると野山も街も一斉に芽吹いて新緑に衣替え。
今年の春は三春どころか四春・五春。
あれよ　あれよと猛スピードで春が駆けてゆく。
地球環境の激烈な変化が我が身に迫る。すごいことがおこっているなぁと感じる 2018 年春 神戸の我々にとっては初めての経験。でも毎年春を待ちかねる北国や信州ではこんな具合なのかと。
年々早くなる春に戸惑いを感じ、何となくめいっぱい喜べないような気分もちょっぴり。
でも　待ちかねた春　今年も神戸の春　新緑をたのしまねばと毎日 good Day Now と風来坊
猛スピードで駆け抜ける 2018 年春の絶景をスライド動画と Photo アルバムにしました。

神戸　2018 年 過ぎ行く春の Photo Album　2018.4.27.　File 収蔵サイト

- ◆ 【スライド　動画】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.mp4
- ◆ 【Photo アルバム】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.photo.pdf

≪参考≫　シャクナゲ 2018 森林植物園　石楠花谷　2018.4.27.　File 収蔵サイト

- ◆ 【スライド　動画】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunage2018.mp4
- ◆ 【Photo アルバム】 http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunagephoto.pdf

毎日の walk のなかで　毎年の春景色と共に気が付かなかった絶景や昨年は見られなかった景色にも幾つか出会うことができました。年々季節の感覚が狂って、その振幅が大きくなっている春の訪れ。
歳と共に年齢からくね感覚も加わって、今年は特に素直に春爛漫を喜んでおられぬ思いをふっと感じています。
でも　毎年この時期に作る身勝手な神戸の春のアルバムですが、私にはうれしいアルバム。
毎日　Good Day Now　今を元気にと。　2018.5.3.　from From Kobe　　Mutsu Nakanishi

1. 4.10　久しぶりに神戸の街にでて、諏訪山レインボーブリッジに登る
　若者のデートスポットですが、久しぶりに神戸の街が眼下に広がる
2. 4.14.　穏やかな春の午後　鉄拐山より大阪湾が一望　穏やかな須磨浦の海に潮目がくっきり見える
　須磨の春　春の海ひねもす　のたりのたりかな
3. 4.20.　新緑に包まれた姫路城　新緑の中を舞う白鷺のごとし　緑のトンネルの中を歩く
　鉄鋼マンとしての出発をした若者たちの一群が写真を撮っているのであう。
　わたしにも昔こんな時代があったと懐かしく　若者たちにエールを送る
4. 4.23　自覚の角先も真っ赤なポピーが咲いて　華やかに　いつもの春の角先に
5. 4.27.　シャクナゲ 2018 盛りが過ぎたかと心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
　今年も新緑の谷を埋め尽くす日本シャクナゲ　新緑の中に咲くハンカチの木や
　ドウダンツツジにも出会えました。
　谷の上部のホソバシャクナゲはいつもはこれからという時期ですが、ちょうど盛り
　ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書く。これは山口の「特牛・コットイ」級の難読や
6. 4.27.　東播磨吉川の黒滝三木市吉川町の美嚢川幅一杯　幅 30m、落差 4m の滝　）
　東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる
　こんな美しい滝「黒滝」がある。水辺が恋しくなってきた矢先、初めてたずねました
7. 5. 1.　さわやかな五月の風に横尾道　のじぎくの丘の大空を泳ぐこいのぼり
8. 5. 3.　５月の連休はいつものごとく家で休養
　待ちかねたアグロステンマの花が咲いて　５月の角先・庭に掉尾を飾るバラの香りが漂う
　薫風５月　Good Day　今日も元気に　孫たちも帰ってのんびりと

石楠花　四月の初めというのにもう満開に
2018. 4. 5.　白川台で

石楠花　四月の初めというのにもう満開に
2018. 4. 5.　白川台で

正面に兵庫県庁を中心に神戸の街と神戸港
再度山ドライブウェイ　諏訪山　レインボーブリッジ　2018. 4. 10.

2018. 4. 10.　諏訪山　レインボーブリッジより　元町・三宮南部界隈　奥に港島が見える

2018. 4. 10.　諏訪山 レインボーブリッジから眺める神戸の街

春　鉄拐山から眺める神戸の街と大阪湾遠望　2018.4.14.　鉄拐山より

明石海峡　須磨浦　潮目が見える須磨の海　2018.4.14.　鉄拐山より

春の須磨浦　ゆったりと潮が流れ　潮目がみえる　2018.4.14.　鉄拐山より

春の須磨浦をゆったり　潮が流れる　2018.4.14.　鉄拐山より

春の須磨浦をゆったり 潮が流れる　2018.4.14.　鉄拐山より

南側正面から眺める国宝姫路城　2018. 4. 20.
青空をバックにそびえ立つ姿は本当に美しい

久しぶりに姫路城の北側　県立歴史博物館へ資料をもらいに出かけました。
南側は観光客でいっぱいですが、北側は新緑に包まれた落ち着いた空間
お城を見上げながら、お堀端をぐるりと一周　散策を楽しんで帰ってきました
2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城の北側　散策路2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城　北側の散策路より　2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城の北側　散策路2018. 4. 20.

新緑に包まれた姫路城の北側　散策路2018. 4. 20.

お堀を巡る船が運行されていました
お城の大修理が完成して　姫路城の周りも大変貌
国宝姫路城と共に　姫路の街が大変貌
街の発展には　目を瞠る　2018.4.20.

国宝 姫路城　2018. 4. 20.　南側正面より

姫路城の南側正面に戻るとこんな光景も
2018. 4. 20
新日鐵住金(広畑)の新入社員たち
わたしにも昔こんな時代があったと・・・
懐かしく　若者たちにエールを送る

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

石橋花谷に入ってすぐ、石橋花の花のトンネルの上に、
ハンカチの木が花をつけていました。2018. 4. 27. 六甲森林植物園

花を一杯つけたハンカチの木　2018. 4. 27. 六甲森林植物園

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

ホソバシャクナゲは　例年　まだ蕾か多い4月末
今年は満開に近い。
谷の上斜面に植樹が進められてきた効果でしょうか
今年はホソバシャクナゲの花が谷の上部一帯がを埋め
尽くしていました。
2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石橋花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

清純な色合いが魅力の日本シャクナゲ
今年も新緑の谷を埋め尽くす美しい姿に出会えました
今年は特にホソバシャクナゲが満開でラッキーでした

でも　季節感をじっくり味わう水見もない今年の春の
スピードにはびっくり。
地球環境の変化をわが身にひしひしと感じる2018年春です

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

新緑の森　森林植物園　散策

森林植物園内南のシアトルの森では西洋シャクナゲが花をつけ、
すぐ横のドウダンツツジも枝一杯に白いゆをつけているとの案内
森林植物園　新緑に包まれた森の午後　散歩を楽しむ。

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

新しい発見!!

ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書くんだ
何年も春の白い花・秋の紅葉と
何年も出会って来て　初めて知りました
ドウダンツツジは　[illegible]
若夜間の明かりに　[illegible]
[illegible]

新緑の淡い緑の中　小さな白い花が重なり合って、
新緑に素晴らしい濃淡をつける。
新緑の中でも一番気に入っているドウダンツツジ
今年も健在でした

ドウダンツツジ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口

ドウダンツツジ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠谷入口

2018. 4. 27.　六甲森林植物園

西洋シャクナゲ　2018. 4. 27.　六甲森林植物園　シアトルの森で

2018. 4. 27.　六甲森林植物園　石楠花谷で

東播磨吉川の黒滝　2018.4.27.

（三木市吉川町の美嚢川に7かかる幅30メートル、落差4メートルの滝　）
東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に
落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる　こんな美しい滝「黒滝」がある
暖かくなって　水辺が恋しくなってきた矢先、初めてたずねました

四季折々　山あいに広がる田園地帯　郷の景色が見たくなると、
北の丹上山を越えて淡河から　山田錦の里吉川(三木市吉川)へ
原チャリを走らせる。
そんな田園地帯の中に　美しい滝があるのを初めて知りました。
それも　よく知る　中国道吉川ICや日帰り温泉「よかたん」のすぐそば
東西に広がる吉川の里の中央を流れ下る美嚢川の川幅一杯にかかる滝
初めて　行きました。

中国自動車道吉川ICのすぐ東
県道17号沿い美嚢川にかかる黒滝

黒滝の美嚢川南岸段丘より眺める吉川の里　吉川IC方面　2018. 4. 27.

美嚢川南岸の丘より眺める黒滝　2018. 4. 27.

美蓑川南岸の丘より眺める黒滝　2018. 4. 27.

美蓑川南岸の丘より眺める北側吉川の里　2018. 4. 27.

帰り道　吉川から南へ山越えした淡河町僧尾の里で
美しいレンゲ畑を見つけました
今年一番のレンゲ畑です　2018. 4. 27.

淡河町僧尾の里のレンゲ畑　2018. 4. 27.

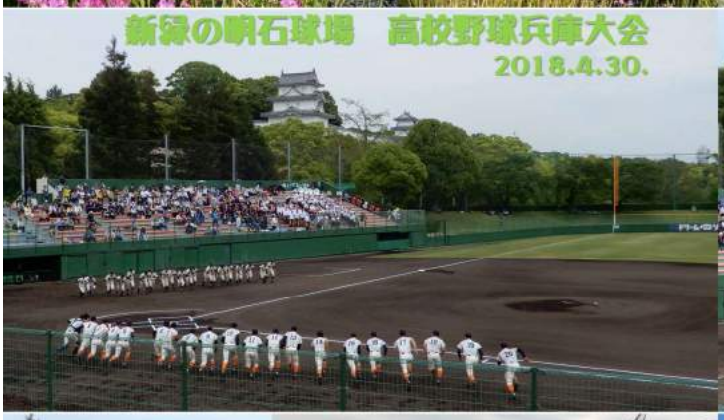
淡河町僧尾の里のレンゲ畑　2018. 4. 27.

東播磨吉川の黒滝

豊かな水で結ばれた吉川の田園地帯の中にある「黒滝」
（三木市吉川町の美蓑山にかかる幅30メートル、落差4メートルの滝　）

田園が広がる「山田錦の里吉川」の街中の田園に埋もれてひっそりと
落差はいさいが川幅一杯に流れ落ちる美しい滝「黒滝」がある。
吉川のナイアガラといわれそうですが、それほどでもなし。
でも、田園地帯を川幅一杯に広がる滝　堰堤から見間違う滝ですが、
川の中の岩にとってましかまで、近づける滝　おかげでいろんな写真が取れました。
今回はよっぽどの事情にはつらまらなかったが、四季折々訪ねる神戸の北の田舎
ならではのスポットが多くあります。
黒滝のレンゲ畑は、この春の嬉しい出会いでした。
昨日、まるでみえなかったが、今回は出会えずでした。
「神戸に有馬街道小野ルート」を東京都稲城園の石榴花谷を訪ね、
千歳　黄金から円山山麓を吉川への北神戸田園を巡る県チャリwalk。
2018年度の新緑を一日満喫できました。
2018. 4. 27.　夕　美蓑山麓美蓑川　眺えながら帰りました。

新緑の明石球場　高校野球兵庫大会
2018.4.30.



2018. 5. 1.　横尾道　野路菊の丘で

新緑の薫りを運ぶ5月の風に、
アグロステンマの花が風に揺れ、
バラも咲き始め、庭の花も一転
薫風5月のはじまり
Good Day 今日も元気に
2018.5.3. from From Kobe
Mutsu Nakanishi

新緑の薫りを運ぶ5月の風に、
アグロステンマの花が風に揺れ、
バラも咲き始め、庭の花も一転
薫風5月のはじまり
Good Day 今日も元気に
2018.5.3. from From Kobe
Mutsu Nakanishi

2018 Walk 06

何万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷　2018.5.12.

１年４ヶ月の南極での任務を終えて、この３月末に帰国した第 58 次南極観測隊
副隊長兼越冬隊長の岡田雅樹博士から南極の氷山から切り出した南極の氷が届きました

１年４ヶ月にわたり、第 58 次南極観測隊兼越冬隊長として活動し、この３月末に帰国された岡田雅樹博士。
越冬隊が南極氷山から切り出して持ち帰えられた南極の真っ白な氷塊を南極のシール付きの箱に一杯詰め込んで、
送っていただきました。　我が家にとっては何よりの南極土産。
家内は舞い上がって、孫たちや知人に電話。
孫たちも目を輝かせてやってきました。

もう　随分昔になりますが、
「南極氷で割った洋酒　氷が解けるときにプチプチかすかな音が聞こえる」とおすそ分けにあずかったことがある。
音が聞こえたかなぁ……　音も味も今は記憶なし。

何万年前の南極のタイムカプセル　南極氷山の氷
氷に封じ込められた空気そして氷そのものも　本当に清潔で、何も混じっていないのだそうです。
南極大陸の清潔さはいまも。南極では非常に寒いのに　空気が非常にきれいなため、吐く息が白くならないのだそうです。
地球で一番清潔な南極をよごさぬよう南極観測隊も十分注意して観測が続けられています。
また、勝手に南極にあるものを持ち帰ることはできず、南極の氷も許可を受けて南極観測隊が持ち帰ったものです。

第 58 次南極地域観測隊

「南極の氷」について

南極の氷は、毎年南極観測隊員が昭和基地の周辺に漂流する氷山から切り出して隊員関係者へのお土産として持ち帰るものです。南緯 55 度以南においては、研究資料等特別に許可されたもの以外は、通常持ち帰ることは許されておりませんが、この氷山氷は持ち帰りが許可されているものの一つで、毎次観測隊では越冬隊員一人あたり小段ボール 4 箱分南極氷を持ち帰っております。

南極氷は、氷山から切り出して持ち帰ったものですが、その起源は南極氷床（南極大陸上に存在する氷）から海洋に流出したものであることがわかっています。南極氷床は、数万年の時間をかけて南極大陸上に降った雪が降り積もり圧縮されて形成されます。したがって、氷の中に過去の大気が気泡となって閉じ込められた状態で保存されております。そのため、南極氷は一般的には透明ではなく白い氷となります。気泡は時間をかけて圧縮されており、水に浮かべると氷が溶ける際に圧縮された空気がはじける音を聞くことができます。

極地研究所を中心とする研究グループでは、昭和基地からおよそ 1000km 内陸に位置する南極大陸上にドームふじ基地を設置し、深層アイスコア掘削計画を進めており、アイスコア中に閉じ込められた過去 100 万年におよぶ地球大気の組成、気温変化等を調べる研究チームが活動をしております。

小中学校等で行われる授業あるいは講演会等では、この南極氷を通して過去の地球環境の変遷を調べることができるということを気泡がはじける音を聞くことで実感し、南極観測による研究成果への期待を膨らませてもらうことができます。また、南極の大気は、非常に清浄な大気であることも知られております。通常日本では真冬の寒冷な時期には人が吐く息が白くなる原因の氷結核が大量に存在しますが、昭和基地周辺においてはマイナス 20 度の屋外でも人の吐く息が白くならないほど大気が清浄であることは隊員は経験しております。

そのため、南極氷も極めて純粋に近い清浄な氷であることが成分分析によっても判明していますが、国内においては食品に準じるような扱いはしておりませんので、保証のかぎりではありません。学校等においては飲むようなことは推奨しておりませんが、お土産氷については、以上のような隊員からの説明を付して取り扱いはお任せしております。

1 年 4 か月に及ぶ隊員の活動の一端を思い起していただくとともに、国内において関係する皆様のご支援に感謝して南極氷をお楽しみいただければと思います。
どうもありがとうございました。

第 58 次南極地域観測隊
副隊長兼越冬隊長
岡田雅樹

国立極地研究所

大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構

第 58 次南極地域観測隊

「南極の氷」について

南極の氷は、毎年南極観測隊員が昭和基地の周辺に漂流する氷山から切り出して隊員関係者へのお土産として持ち帰るものです。南緯 55 度以南においては、研究資料等特別に許可されたもの以外は、通常持ち帰ることは許されておりませんが、この氷山氷は持ち帰りが許可されているものの一つで、毎次観測隊では越冬隊員一人あたり小段ボール 4 箱分南極氷を持ち帰っております。

南極氷は、氷山から切り出して持ち帰ったものですが、その起源は南極氷床（南極大陸上に存在する氷）から海洋に流出したものであることがわかっています。南極氷床は、数万年の時間をかけて南極大陸上に降った雪が降り積もり圧縮されて形成されます。したがって、氷の中に過去の大気が気泡となって閉じ込められた状態で保存されております。そのため、南極氷は一般的には透明ではなく白い氷となります。気泡は時間をかけて圧縮されており、水に浮かべると氷が溶ける際に圧縮された空気がはじける音を聞くことができます。

極地研究所を中心とする研究グループでは、昭和基地からおよそ 1000km 内陸に位置する南極大陸上にドームふじ基地を設置し、深層アイスコア掘削計画を進めており、アイスコア中に閉じ込められた過去 100 万年におよぶ地球大気の組成、気温変化等を調べる研究チームが活動をしております。

小中学校等で行われる授業あるいは講演会等では、この南極氷を通して過去の地球環境の変遷を調べることができるということを気泡がはじける音を聞くことで実感し、南極観測による研究成果への期待を膨らませてもらうことができます。また、南極の大気は、非常に清浄な大気であることも知られております。通常日本では真冬の寒冷な時期には人が吐く息が白くなる原因の氷結核が大量に存在しますが、昭和基地周辺においてはマイナス 20 度の屋外でも人の吐く息が白くならないほど大気が清浄であることは隊員は経験しております。

そのため、南極氷も極めて純粋に近い清浄な氷であることが成分分析によっても判明していますが、国内においては食品に準じるような扱いはしておりませんので、保証のかぎりではありません。学校等においては飲むようなことは推奨しておりませんが、お土産氷については、以上のような隊員からの説明を付して取り扱いはお任せしております。

1 年 4 か月に及ぶ隊員の活動の一端を思い起していただくとともに、国内において関係する皆様のご支援に感謝して南極氷をお楽しみいただければと思います。

どうもありがとうございました。

第 58 次南極地域観測隊
副隊長兼越冬隊長
岡田雅樹

南極昭和基地近くの氷山からこんな風に割って採取されました

地研 南極観測のホームページ & 極地研 南極・北極館のホームページ　ほかより
http://www.nipr.ac.jp/jare/ & http://www.nipr.ac.jp/science-museum/exhibits/index.html

南極の氷山

よく見るとこんなに良く透き通っていて、何万年前の泡がいっぱい詰まっています
コップにかけらを入れて、水で溶かすと、「シュワッ」と小さな音かして、
耳を澄ますと「チッチッ」と音をさせながら次から次へ泡が浮かんできます

南極大陸に降り積もった雪が当時の空気を封じ込めながら何万年も積み重なり、圧縮されてできたものである。氷の中全体に何万年も前の空気を一杯閉じ込めているため、真っ白に見えるのだと聞く。
この氷塊のかけらを陽にかざすと、透明な氷に一杯泡が詰まっているのが見え、
それがキラキラ輝いて白く見えている。
南極氷と知ってみるからからかもしれませんが、
本当に美しい。
コップに小片を入れ、水を注ぐと「シュアシュア」と小さな音をたてながら溶けてゆく。そして、水に浮かんだ氷が溶け、「フチ　プチ」とかすかな音をたてながら、空気の泡を表面に登らせてゆく。
この空気の泡は何万年も前の南極の大気だという。

岡田博士が送ってくれた解説分によれば、何万年も前の太古の雪と氷は何の混じりけもなし。清浄そのもも　。
また、今の南極大陸もまた清浄で、冷たい大気に吐きだす息も白くはならぬという。初めて知る話にそうなんやと。
また、コップの中に入れた南極氷の小片が水の中で溶けて、封じ込めていた泡が飛び出す音をデジカメ動画で観察。
正確に音がとらえられたかどうか…・疑問も残るかすかな音。
下記サイトに入れてありますので、一度アクセスしてみてください。

■　水に浮かべた南極氷の泡がはじける音

http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/1806nankyokukoori.mp4

思いがけずに南極氷と共にやってきた白い南極の世界　　貴重な南極氷山氷を送ってくれた岡田雅樹博士に感謝。
次々とイメージが膨らんで、引き込まれてゆく。うれしいひと時でした。

よく見るとこんなに良く透き通っていて、何万年前の泡がいっぱい詰まっています
コップにかけらを入れて、水で溶かすと、「シュワッ」と小さな音かして、
耳を澄ますと「チッチッ」と音をさせながら次から次へ泡が浮かんできます

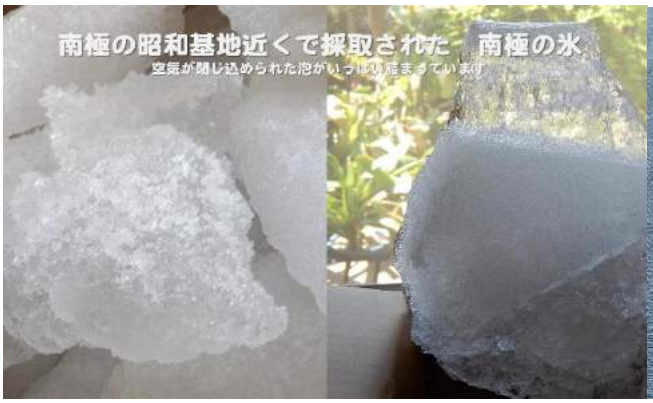
南極の昭和基地近くの湖「アンターセー湖」
約 35 億年前始地球　大気の酸素をつくり、現世生物のルーツであるシアノバクテリアの生態系をそっくりそのまま封じ込め、太古の世界そのままに今見られることにびっくりした先月、
今度は、「南極の氷山氷の中に大量の泡として封じ込められた数万年前の大気」
太古の地球の Iron Road の世界が垣間見れた気がしています。まだまた　南極には神秘の世界があるのだろうと
この南極氷山氷に孫たちが夢をふくらませられるように　インターネットにある極地研究所　南極観測や南極・北極館のページから写真を取り出し、岡田雅樹博士が送ってくれた解説「南極氷うんちく」と共に整理しました。
南極については忘れかけていましたが、南極について、もっと知らねばと。

2018.5.12.　南極の氷山氷をコップの水に浮かべながら

Mutsu Nakanishi

南極昭和基地近くの氷山からこんな風に割って採取されました

地研 南極観測のホームページ & 極地研 南極・北極館のホームページ ほかより
http://www.nipr.ac.jp/jare/ & http://www.nipr.ac.jp/science-museum/exhibits/index.html



南極の海岸にはペンギンもアザラシもいて、
時折　観測隊のいる昭和基地周辺にもやってくるそうです

【Photo Almum & スライド動画】

2018.６月　梅雨の晴れ間　久しぶりに　東六甲を歩く【1】

六甲高山植物園より 六甲最高峰を経て 緑に埋まる住吉谷を下る　2018.6.14.

2018 Walk 07

1. ニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園
2. 六甲山上の縦走路を東へ山上散策　六甲山最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ最もポピュラーな六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る

尼崎と西宮の境を流れ下る武庫川土手から眺める東六甲　右端にこんもり甲山が見える

須磨海岸から宝塚に至る全 55～56 キロに約 50 の山が連なる*六甲連山*。最高峰は六甲山（931.25m）須磨からは山並みが重なり、六甲山頂など東六甲の山々はよく見えない。でも、子供の時から尼崎に住んでいた私にとって、朝夕眺める東六甲の山並みはポピュラーな山並み。

六甲山上の峰に見える鉄塔群・ユニークな姿の甲山／おたふく山・表六甲のいくつかの谷筋。通った学校の校歌にも読みこまれ、須磨に移ってからも、電車に乗ると車窓から山並みを探す。健康 walk にいつも足をむける須磨の六甲縦走路でも　やっぱり遠く東六甲の山並みや阪神間の街の景色を探す。　本当によくなれ親しんだ山々である。

晴れ渡った梅雨の合間　西六甲鉄拐山から東に延びる六甲連山とその一番後ろ遠くに隠れて、山裾だけが見える東六甲の山々を遠望する。

「本当に長いこと東六甲の六甲最高峰・住吉谷山裾だけが見えているお多福山・甲山にも登っていない。今どないなっているのだろか・・・・・」と好奇の虫が騒ぐ。

かつて　よくハイキングに出かけた場所ではあるが、住宅地として大きく変貌した阪神間六甲の山腹。色々話は聞くが・・・・と興味深々。

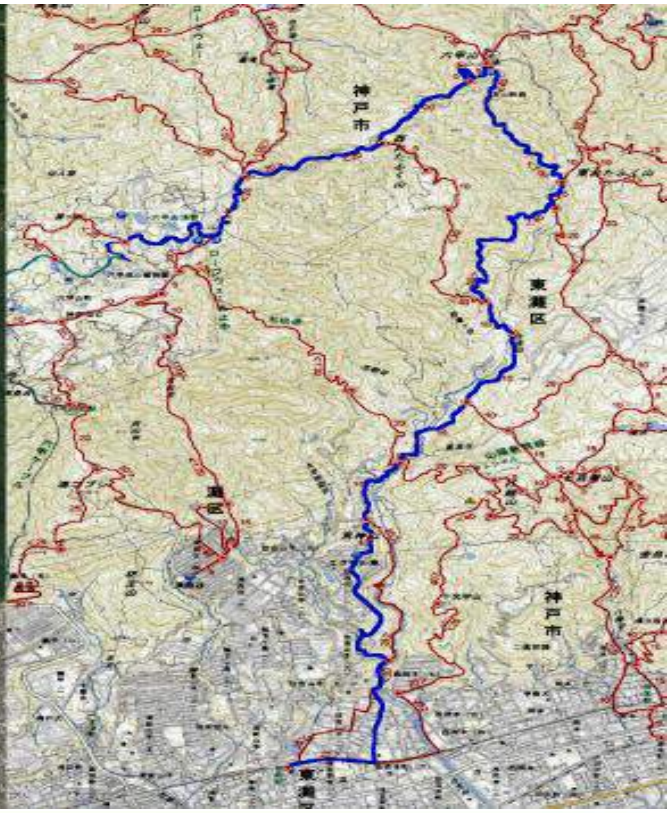
この梅雨の晴れ間　電車に使えば１時間もかからず麓に行けるので、毎日の健康 walk に東六甲へも足を延ばそう。

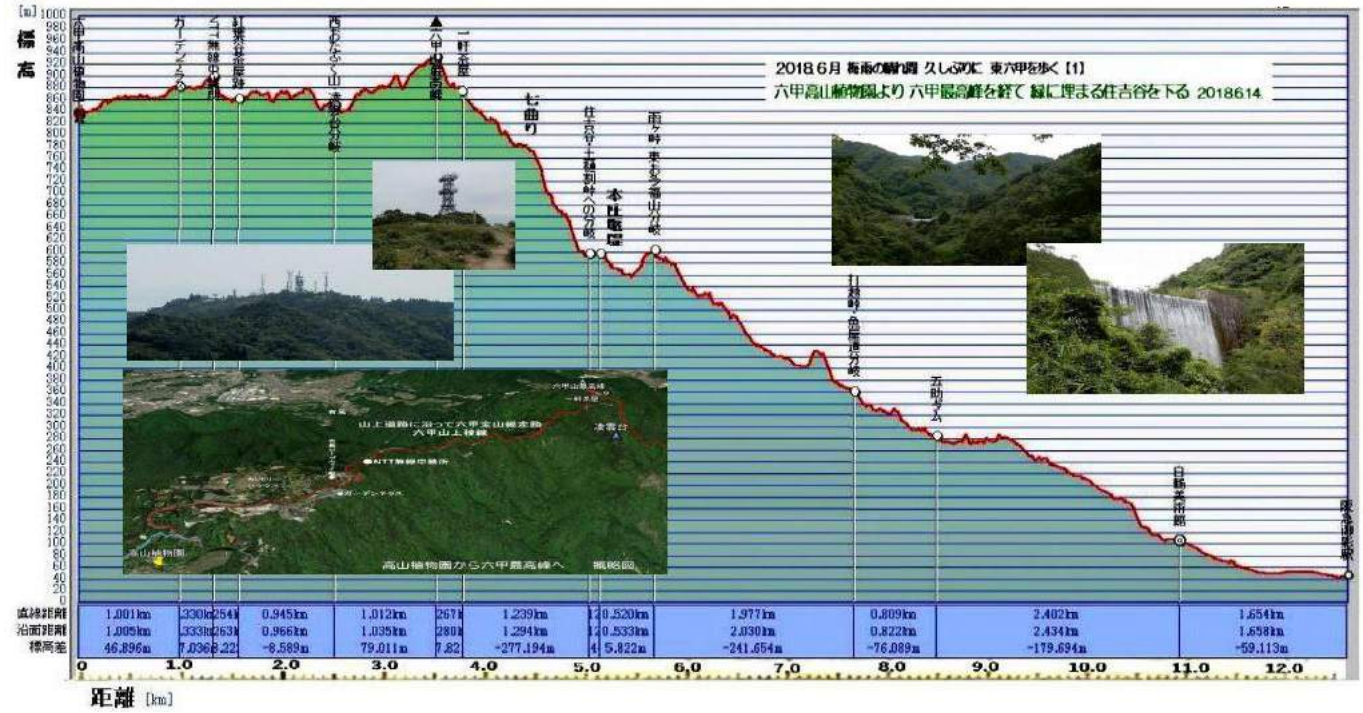
もう１０数年足を踏み入れていない東六甲。

一番行きたいのは住吉川の谷筋の古道とその上に聳える六甲山最高峰とおたふく山。そこから眺める阪神間の市街地　大阪湾

沿岸の大パノラマ。いつも見えない尼崎周辺　甲子園はみえるだろうか?
そして最後は遠足でよく行った奥池・甲山とすぐにコースが頭に浮かぶ。
開発が進み、登山道も整備されているが、気になるのはアプローチの長いきつい山道が続く住吉谷。歳を考えるとアプローチの長い急な住吉川を登るのはちょっとしんどい。東六甲の道も随分変わっているだろう。まずは様子見と。
６月１４日梅雨晴れの朝　ケーブルで六甲山上へ・
毎年この時期行く高山植物園の花を見て、山上の縦走路を東へ　山上散策　六甲最高峰を経てへ住吉谷 六甲越一軒茶屋から住吉谷の古道　魚屋道・住吉道を下って　東神戸の御影へ下ることに。一番のポピュラーなコース。
梅雨の晴れ間　６月１４日朝　期待を膨らませつつ、六甲ケーブルで六甲山上へ

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て　久しぶりに住吉谷を下る　2018. 6. 14.
1. ニッコウキスゲの咲く　六甲高山植物園
2. 六甲山上を東へ歩いて　六甲山最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る





1. 初夏の高山植物やニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園

６月の上旬青いケシやクリンソウなどに合わせ、
毎年六甲高山植物園に咲く高山植物を見に出かけるのですが、
今年は出遅れ。ただでさえ温暖化が進む中　ニッコウキスゲが今満開と聞きましたが??
いつも楽しみにしている駒草・エーデルワイス・オオヤマレンゲなどはまだ咲いているだろうか?
あまり期待はせずに‥‥
お目当てはニッコウキスゲ。
でも駒草やオオヤマレンゲにもぜひ出会いたいと期待一杯。
六甲高山植物園東門より入る。

左: ニッコウキスゲが咲き始めた湿地　右:初夏の高山植物が咲く岩山　　2018.6.14.　六甲高山植物園で

六甲高山植物園　２０１８年６月　花のアルバム

東門への丘の斜面の草むらにはイブキトラノオやオオヤマブキショウマなど梅雨時を彩る山野草が一杯。今年も六甲に咲く初夏の数々の高山植物　ニッコウキスゲのほかコマクサやエーデルワイスなど高山植物や梅雨時の山野草に出会えました。
以外にも　まだ水辺にクリンソウも残っていて、うれしいオウヤマレンゲにも出会えて、満足感一杯で東門へ向かう。
それにしても　すごい速さで過ぎゆく季節　地球環境の変化をここでも感じました。

六甲高山植物園　東門へ向かう丘で　2018.6.14.

2.. 六甲山上の六甲全山縦走路を東へ六甲山最高峰へ

12:30　六甲高山植物園東門前から六甲山最高峰へ向かって東へ山上 walk。

最高峰は六甲山上の一番東端に聳えるため、山上へ上がってもいつもパスしで久しぶり。でも今回は須磨からみえぬ東六甲・大阪湾の大展望。それの期待で一杯。　山上散策も久しぶり。紫陽花は咲き始めのようですが、いつも見上げる六甲稜線の鉄群にも今日はパスせずゆっくりと。

新緑に包まれた山上散策に期待がふくらむ。

六甲の全山縦走路は山上でドライブウェイと何度か　交差しながら、ほぼ並行して東六甲へ伸びる。六甲高山植物園前のドライブウエイの坂道をカントリーハウスを通過して、ガーデンテラス前まで歩いて、六甲全山縦走路に入る。

今日は平日なので車がすくなく、この山上道路をそのまま六甲最高峰下の一軒茶屋前まで行けるが、ガーデンテラス前から静かな緑に包まれた登山道に入る

ガーデンテラスの横から縦走路に入ると稜線の南側　山肌に沿って東へ進む。パッと前方に視界が開け、阪神間の海岸部の大遠望。また前方にNTT 無線中継所の電波塔がみえる。

下からいつもみえるガーデンテラス・有馬ケーブルの鉄塔群と一緒に見えている電波塔だ。

北六甲と呼ばれるNTT 無線中継所周辺縦走路は大阪平野を見渡す絶好の展望所。神戸の港に続く阪神港がくっきりと。

中継所を北へ回り込んで稜線へ。山上へ出たところが広くなっていて標識があり、山上道路を渡り、ここが、北へ有馬へ紅葉谷を下る地図に極楽茶屋跡と記された有馬入口であるとわかった。

また、眺めてきた谷が住吉谷･大月地獄谷と並び堰堤が多数並ぶ急峻な谷筋。滝と堰堤が続く表六甲治水・治山の要　水晶谷・西滝ケ谷の谷筋で、西おたふく山を間に「住吉谷」の一つ手前の谷と知れた。

ここから全山縦走路は稜線の北側へ移り、また緑の林の中を次は凌雲台・西おたふく山への別れへ。雨上がりの晴れ間　本当に清々しく心地よい。 道は北側からまた、南へ巻いて、また山上道路をクロスして、南側凌雲台への道へ。　南に西お多福山頂上　凌雲台にある電波塔が見えている。六甲山上稜線の南側はまさに阪神間の電波塔の銀座である。

まもなく南の凌雲台へ向かう舗装道路とクロスして東へ向かうと六甲最高峰も近い。

でも中々六甲最高峰は見えず、相変わらず緑の中を上り下りを繰り返しつつ、また、北側の林の中へ。

クロスした山上道路のわきには北区と東灘区の境の区分標識が見える。

林の中、上り下りを繰り返す中、前方の木々の間から、最高峰の頂上にある電波塔がちらっと見える。

この林を抜ければ、六甲最高峰である。

また、山上道路とクロスして階段道を登れば、いよいよ六甲最高峰の頂上だ。

樹木の間から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、　ひょいと最高峰の広い山頂部の南端に飛びだす。　南側の山上道路から登ってきた広い道とのＴ字路に。ここを左へ折れて少し進めば頂上だ。

北に頂上脇にある最高峰の目印　電波塔が見え、反対側には南東に広がる大阪湾沿岸大阪平野の大パノラマが広がっている。まずは頂上へ行って、早くこの大展望を楽しみたい。

高山植物園から約１時間の山上 walk で、六甲山最高峰頂上に到着。遮るもののない 360 度の大展望が開けている。もう 数十年ぶり。　下から六甲山上の電波塔を探すことはあっても、ほとんど六甲最高峰の記憶はかすかに。こんな風になっているんだ。　また、山上バスもなく、山上の東端までは遠いと思っていましたが、山上から約１時間でこれる距離なんだとびっくり。しかも下界の喧騒から離れ、心地よい緑に包まれた林の中をいつも見上げる稜線の鉄塔群を巡り、そして眼下に広がる大パノラマを楽しみながらの三城散策で六甲山山頂に。

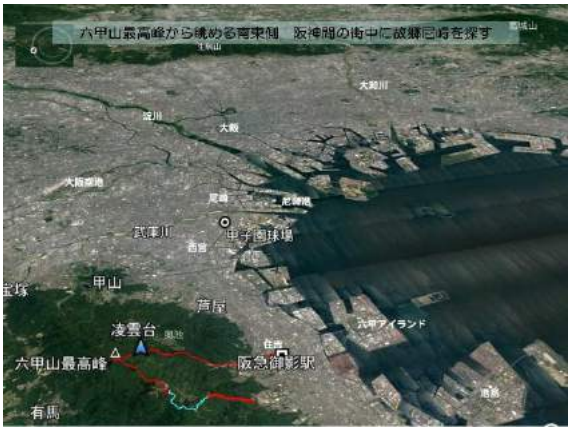
2018.6.14.　　13:38　標高９３１ｍ　六甲頂上到着です

山頂標識の北側から六甲最高峰の頂上部を眺める　2018.6.14.

六甲最高峰から眺める大阪平野　2018.6.14

六甲山最高峰から眺める南東側　阪神間の街中に故郷尼崎を探す

大阪の街のビル群・淀川を背に　○印が阪神尼崎・玉江橋周辺　目印白いアルカイックホテル・総合文化センターのビルが見える。　その左が阪神尼崎周辺？ 尼崎城がみえている気がする楽しみにしていた



大阪湾沿岸東部　尼崎の街や大阪のビル群がぼんやりながら遠望できました。また、今再建中の尼崎の城も・・・・・

長いことゆかなかった六甲山最高峰が　こんなにきれいに整備され、約１時間の山上散歩で訪れられたのにもびっくり。

また、いつも遠く遠望する六甲稜線に見える鉄塔・電波塔にしっかり出会えたのも収穫。

新鮮でうれしい六甲山上　緑のWalkになりました。

帰りは　南すぐ下のドライブウェイの一軒茶屋に出て、

久しぶりに古い六甲越えの道　住吉谷を降る。

こちらも、もう１０年以上入ったことなし。　長い下りのウオークになるが、興味深々で最高峰を後にする。

3.　裏六甲有馬と表六甲を結ぶ最もポピュラーな六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る

14:00　最高峰での展望を楽しんだ満足感一杯で、山頂をあとにする。 帰りは予定通り、すぐ下の一軒茶屋におり、そこから裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越　住吉谷を下る古道「魚屋道・住吉道」を御影へ。

下り始めてすぐ下　六甲越　一軒茶屋。ここから北へ越えれば有馬へつながる六甲越魚屋道。南へ下れば住吉谷。

建物の南側に一軒茶屋の碑があり、この南が住吉谷へ降りてゆく古道「住吉道(魚屋道)」の下り口である。

ここから七曲りの急な坂道を一機に住吉谷の谷筋に入り、住吉川が流れ下る左岸につけられた登山道を下る。

表六甲の川は六甲から海まで短い距離の谷筋を一機に流れ下る急峻な暴れ川で、幾多の災害をひきおこしてきた。その中で長年にわたる植林と数多くの堰堤が築かれ、今も続く長年にわたる六甲の治水・治山の要なのが住吉谷である。

その中心にある本庄堰堤・五助堰堤。

植林が行われて間もない荒れた谷筋の記憶が薄っすらあるのみですが、本庄堰堤・五助ダムの名前はしっかりと。今どうなっているのか、地図と記憶を辿りつつ、興味深々で七曲りの坂道を下ってゆく。

七曲りの急坂を下り終えるとすぐ南に本庄堰堤がある住吉谷の底。道標が谷側が流れる傍らに道標がある登山道の分岐点。上流側へ谷を詰めると六甲山上の石の宝殿や谷の奥で右手へ土樋割峠を越えると奥池・東お多福山へゆける。また、住吉道(魚屋道)は谷川を渡り、右へ住吉川左岸に沿って住吉谷を下る。谷を渡る下流側には本庄堰堤がちらっと見えている。

芦有道路奥池を登り口にすれば、アプロー地が短く、六甲山上や東お多福山そして住吉川下降など容易になることから、この地点は六甲登山の人気ポイントだと聞く。
ここから住吉川沿い左岸を下るとまもなく、本庄堰堤のすぐ横に出る。

六甲山は、激しい地震を伴いながら、断層のずれを繰り返した結果出来上がった山で、地下深くまでズタズタに割れ、激しく風化しています。このため、過去に幾度も大きな災害が引き起こされ、ました。
明治の頃、乱伐によって裸地であった六甲山は、治山事業等による緑化工事の結果、現在の緑の豊かな美しい山に蘇りました。
しかし、植物が育つうえで、その土壌は未熟で極めて薄く、雨が降るとすぐ流されてしまうのが現状です。
また、雨は下方に一気にしみ込んでしまう地質のため、水を蓄える力もほとんどありません。
樹木の根が生長し、災害に強く、土の層が水を蓄える力を十分持つようになるためには、何百年の歳月をさらに必要とし、今も緑の回復に全力で取り組まれている。

激しく浸食が続いている六甲山には、階段式に数多く治山ダムをつくる必要があります。
過去に何度も、激しい豪雨に耐えきれなくなった山が崩れ、土砂流となって街を襲いました。
中でも、700人を越える死者・行方不明者を出した昭和13年災害、100人を越える死者・行方不明者を出した昭和42年災害は、近年で特に大きく、街に壊滅的な被害を与えました。

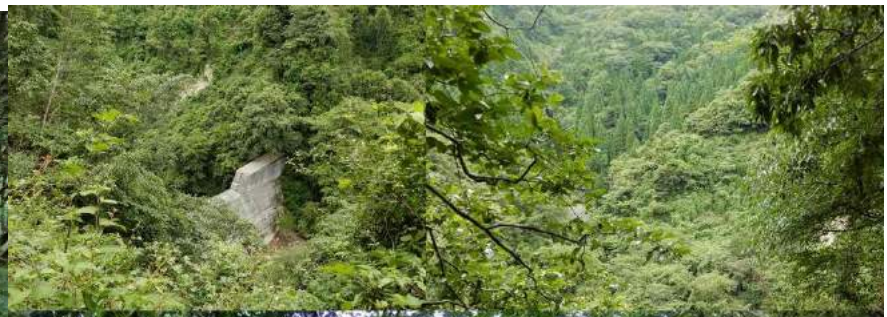
治山ダムの役割

一つは、谷から極端に砂礫が流れ出ないようにくい止めて、浸食を防止することです。不安定な山の斜面が大雨で土石流化し、災害を引き起こすのを防ぐと共に、森の土が流れ出ないようにすることにより、樹木の根の成長を促します。根がネットのようにはりめぐらされ、杭のように地面に刺さっていけば、山が崩れるのを防ぐ力がさらに発揮されるようになります。
　もう一つは、治山ダムの裏に貯まった土砂と土砂の隙間に、雨水を貯えることです。土の中の微生物や昆虫、植物等が生きていくための大切な水を、ゆっくり下流に流すことにより、渓流から水が涸れるのを防ぎ、乾燥した時期にも供給することができます。また、大雨が降っても、いっきに水が流出することを押さえて、洪水を調節する機能も持っています。　　（インターネットより）

本庄堰堤を過ぎて、上ったり下ったり東お多福山の山腹を巻きながら住吉谷を下る周囲の緑のトンネルが美しい。
かつては丸裸になって、荒れはてた住吉谷のイメージがあるのですが、長年にわたる治水・治山事業で、今は見事に緑が復活している。
まもなく、東お多福山襞の奥に登って、本庄第三堰堤を高巻きして回り込んだところで、雨ヶ峠からお多福山・芦屋川への分岐の道標。
かつての魚屋道はここから雨ヶ峠を越えて、風吹岩の尾根筋を下って、東灘の海岸 深江へくだる。
一方、住吉道はそのまま谷筋を下ってゆく。

大雨の時に一機に急流を流れ下る水流・土石流を食い止めるため、上流から下流へ何段にもわたって堰堤が築かれた住吉川流域。大災害と治水・治山の闘いが今も続いている。

雨ケ峠分岐を過ぎて　また住吉道は谷筋へ下って　住吉谷左岸を五助ダムへと下ってゆく。ここでも住吉谷に築かれた堰堤がみえる



谷から山襞に沿って林の中の高巻道になるが、崩落で行く手をはばまれ、さらに山腹を巻いてゆく。
住吉谷ではこんな谷筋の崩落による道の整備が今も続いている。
高巻きの林の中を通りふけ、谷筋に出るととぱっと明るくなって　周囲が見通せ、谷の下へ降りてゆく。
地図によればまもなく打越山への分岐である。
振り返ると住吉谷の奥に六甲最高峰の頂上に目印の電波塔が遠く見え、随分下ったことがよくわかる。
　　突然　住吉谷の治水・治山の案内板が道脇に立っているところから、急に道が石畳になり、びっくり。
むかしの古道の石畳道の名残か?。
この石畳道を少し下った傍らに打越山への分岐の道標があり、打越山への分岐地点と知れる。

また、先ほどの住吉谷の治水・治山の案内板には六甲山地のくずれやすく脆い地質　そして　そこを急流となって流れ下る川の治水堰の工夫について記載されていました。

大雨のたびに土石流が暴れ下った表六甲の谷　いくつもの堰が作られ、知さん治水の工夫が積み重ねられ、今は緑に包まれた静かな谷になっている。　子供の頃　表六甲の谷筋は　知らぬ谷筋や道に入るなとよく言われましたが、こんなに緑につつまれた谷になっているとは本当にびっくり。
でも　油断禁物。いつまた　牙をむくかもしれぬ暴れ川　今も治水・治山の戦いが続いている。

石畳道を楽しみながら、ゆっくり木々に包まれた坂を下ると林の向こうに突然小さな池の岸に出て、向こうは明かるい広い原に小川が流れ、木道が渡っているのがみえ、五助ダムに到着。
でも　広場に出ても高いダムは見えず、あちこちに樹木が茂る原。　まだもっと下らぬと五助ダムでないのだろうか?と はっと気が付く。
ダム湖の中が土砂で埋まって、湿地になっているのだとやっと気が付く。
下流へこの湿地につけられた木道を少し歩くとダム堰堤の横に出た。　確かに歩いてきた原はダム湖の中だ。

五助ダム　名前だけしか記憶はない。柵がされ、堰堤には降りられないが、堰堤のすぐそばまで草原。でも堰堤の幅いっぱい水が落ちている。
なにか　住吉谷治水・治山の格闘のすごさが頭に浮かんだ。

帰宅して google earth で 五助ダム周辺をながめて、状況がよく分かった。また、堰堤の横をくだったところにダムサイトの広場が整備されていて、正面からしぶきをあげて流れ落ちる五助堰堤がよく見えた。

また、このダムサイトの広場は　住吉道とならぶ六甲越の古道「石切り道」や打越山への分岐など数々のバリュエーションルートで東六甲へ登る登り口。　こんなに良く整備されているのも知りませんでした。

このちょっとおおげさ、ですが、逝ってしまった古い友人から五助ダム周辺の話を何度も聞きましたが、やっと五助ダムとの再会をはたせた。　六甲学生時代からフィールドにし、土木の技術屋で山仲間でもあった友を思い出して　ちょっと感傷的にもなって、しばらく五助ダムの水音を聞いていました。

是非　歩いてみたかった住吉谷。

本庄堰堤・五助ダム　そして道標に記された峠・山・地名は覚えているのですが、頭にあるイメージとは大きく乖離。緑に包まれて心地よい谷歩き。また、話でしか知らぬ阪神大水害を起こした住吉谷とそれを契機に一機に進んだ表六甲の治山・治水の歴史と六甲越の歴史の道。　いろんな思いも一緒に須磨では味わえぬ谷道に満足感いっぱい。

まだ、この五助ダム周辺は六甲の山腹なのですが、すぐ下からは高台に広がる住吉地区の住宅地。ぶらぶら街を眺めながら、住吉台から住吉川沿い白鶴美術館前の坂道を下って阪急御影駅まで　まだ長い街歩きが残っている。

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て　久しぶりに住吉谷を下る　2018. 6. 14.

3.　裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る

2018.6.14.　六甲最高峰からの視界の開けぬ狭い谷筋　急な下りが続く住吉道
長い谷筋をやっとぬけて、ほっと一息　やっぱり長いなぁ　これだけは かつての記憶通り
あとはぶらぶらと　白鶴美術館前の坂道を阪急御影駅へ下る　16:30

梅雨の晴れ間　急に思い立ってかつてよく通った東六甲へ　六甲山上へは何度も上がるのですが、ここ10数年歩いたことがない東六甲。　興味深々で歩きました。

毎年この時期訪れる六甲高山植物園　ことしも多くの花に出会えて満足。
そして、久しぶりに歩いた六甲山上walk ・六甲最高峰　そしてそこから下った住吉川沿いの住吉道。興味深々　六甲からの大展望を楽しみながらのうれしい緑の森のハイキング。
こんなによく整備され、静かでゆっくり　緑の中を歩けるのか‥‥とびっくり。

須磨の西六甲からは見られない東六甲。
六甲最高峰からは　眺めたかった阪神間の市街地から大阪湾までの大展望。
そして故郷尼崎の街もくっきりと。
住吉川の古道　住吉道　楽しみにしていた五助ダム周辺・そして住吉道
かつては荒れ果ててはげ山だった山中が本当に心地よい緑のハイキング道に。
でも最初　御影から住吉道のぼろうか・・・と思いましたが、
あの長い六甲山頂までの谷筋道。ちょっと恐れをなして下ることに。正解でした。
やっぱり住吉道のアプローチの長さは記憶通りやっぱり長い。
でも　もうわかったのでどこかで挑戦。

次は　もう一つ気にかかっていた東六甲の道　東おたふく山・奥池ハイクをやろう
東六甲の様子もだいぶわかったので　楽しめそう

見どころ満載の一日を思い浮かべながら　ぶらぶら
住吉川沿いの道　阪急御影駅までの急坂を下りました。

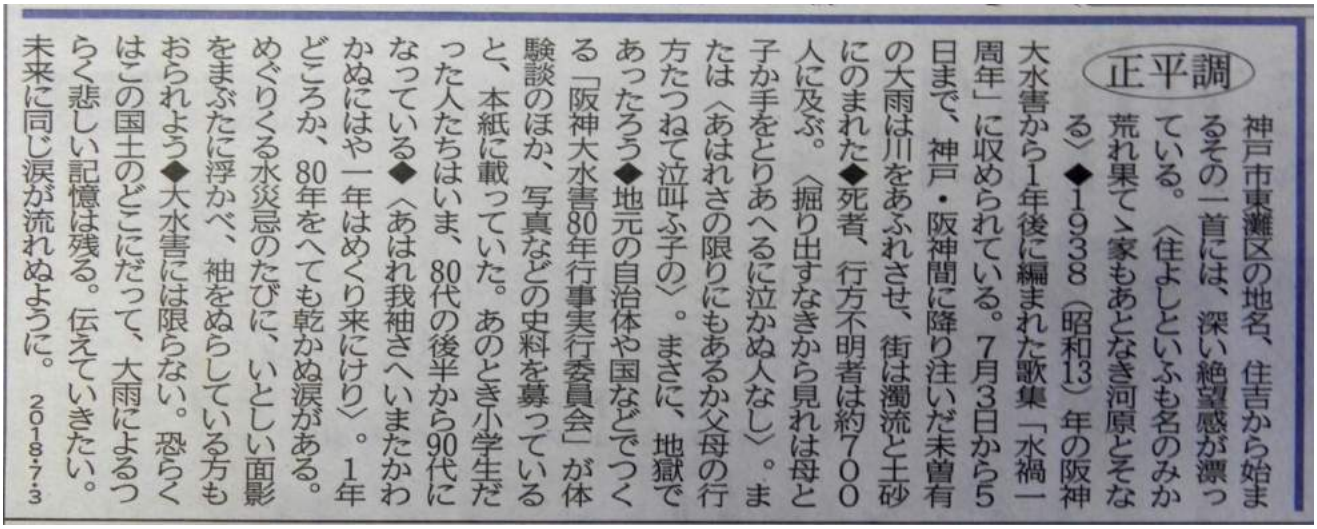
2018.6.14.夕　心地よい疲れの中て　Mutsu Nakanishi

【 参 考 】

1. 六甲の川物語「住吉川物語」国土交通省　六甲砂防事務所

https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/sumiyoshi/sum-b.pdf

2. 神戸新聞コラム「正平調」 2018.7.3.より　住吉谷・阪神大水害の記憶



正平調

神戸市東灘区の地名、住吉から始まるその一首には、深い絶望感が漂っている。〈住よしといふも名のみか荒れ果てゝ家もあとなき河原とそなる〉◆1938（昭和13）年の阪神大水害から1年後に編まれた歌集「水禍一周年」に収められている。7月3日から5日まで、神戸・阪神間に降り注いだ未曽有の大雨は川をあふれさせ、街は濁流と土砂にのまれた◆死者、行方不明者は約700人に及ぶ。〈掘り出すなきから見れば母と子か手をとりあへるに泣かぬ人なし〉。または〈あはれさの限りにもあるか父母の行方たつねて泣叫ふ子の〉。まさに、地獄であったろう◆地元の自治体や国などでつくる「阪神大水害80年行事実行委員会」が体験談のほか、写真などの史料を募っていると、本紙に載っていた。あのとき小学生だった人たちはいま、80代の後半から90代になっている◆〈あはれ我袖さへいまたかわかぬにはや一年はめぐり来にけり〉。1年どころか、80年をへても乾かぬ涙がある。めぐりくる水災忌のたびに、いとしい面影をまぶたに浮かべ、袖をぬらしている方もおられよう◆大水害には限らない。恐らくはこの国土のどこにだって、大雨によるつらく悲しい記憶は残る。伝えていきたい。未来に同じ涙が流れぬように。 2018.7.3

【追伸】

7月5日-7日　兵庫県は記録的な大雨に見舞われ、大きな被害が出ています。
住吉川流域でこんなに治水・治山工事が進められていても、まだ　収め切れていない。
被災された皆様にお見舞い申し上げます。

特に近年の地球環境変化による異常気象のすごさはほとんど経験則が通用しない。
遊歩道があり、美しい住吉川が、いったん荒れ狂うとものすごいことに。
平時では想像もつかない姿。どうかそのすごさに驚愕するとともに、
そんな局面に直面した時の身を守る術を
それぞれ事前に 十分ご検討ください。

2018.7．7.　Mutsu Nakanishi

住吉川周辺がこんな姿に　2018.7.5.

【Photo Almum & スライド動画】

2018.６月　梅雨の晴れ間　久しぶりに　東六甲を歩く【2】

2018 Walk 08

保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東おたふく山へ　2018.6.22.

いつも気になっていたお多福山　胸を膨らませて阪急岡本駅からスタート

ずいぶん久しぶりのルートをハイク　草原が広がるお多福山へ　奥池に降りる

６月１６日　六甲山上　高山植物園から東へ縦走路を歩いて、六甲最高峰に登り、そこから六甲越の古道　魚屋道・住吉道が通る住吉谷を下って、東灘へ。　表六甲の急な谷筋　住吉谷を久しぶりに walk。

引きつ続き、６月２２日　ぜひ歩きたかった表六甲の尾根筋を歩いて、草原が広がるお多福山へ期待いっぱいで出かけました。

眼下に東灘の沿岸部を見下ろす保久良神社・久しぶりの巨岩 風吹岩・ 芦屋 GC を横切りまじかにみる六甲稜線等々変化に富んだ表六甲の尾根歩き。岡本駅から３時間ほど。尾根筋の緑を楽しんだ展望コースから、林の中を抜け、六甲稜線を直上に眺める東お多福山山上の緑の草原から山頂へ。下山路奥池への下りが短いのも年寄りには魅力でした。

梅雨の晴れ間　霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、念願だった東お多福山に登れ、六甲稜線をバックに初夏の花咲く心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯のうれしい東お多福山 walk になりました。

阪急岡本駅→保久良神社→金鳥山→風吹岩→芦屋 GC→雨ケ峠→東お多福山→奥池登山口→阪急蘆屋川駅

尼崎と西宮の境を流れる武庫川 この土手から眺める東六甲の姿は私にとっては小さい頃から朝夕慣れ親しんだ景色。東端にこんもりと甲山がみえ、その後ろに東六甲の山々が連なる六甲が一番美しく見える景色。
電車に乗ると毎度探す景色でもある。 須磨に移り住んで、西六甲に登る機会は増えましたが、東六甲に行く機会もなく、イメージだけが頭に残っている。
　須磨西六甲の鉄拐山から眺める六甲の山並み。六甲稜線の山々の後遠くに隠れるように、東六甲の山々の山裾が遠望される。
「長いこと東六甲の六甲最高峰や表六甲住吉谷 それに山裾だけが見えている お多福山・甲山にも登っていない。今はどないなっているのだろうか?」と好奇 の虫が騒ぐ。
かつてよくハイキングに出かけた場所ではあるが、住宅地として大きく変貌した阪神間六甲の山腹。色々話は聞くが・・・・と興味深々。
この梅雨の晴れ間　電車に使えば１時間もかからず麓に行けるので、
毎日の健康 walk に東六甲へも足を延ばそう。
一番行きたいのは住吉川の谷筋とお多福山そして最後は甲山へと。

6月22日晴天の朝９時半　お多福山ハイクに胸膨らませて、阪急岡本駅に降りる。六甲連山から沿岸部までの距離が短く、六甲山麓の急傾斜地に広がる東灘の街。今は高級住宅街・学生の街と大きく変貌を遂げた阪急岡本駅に降り立つのも久しぶり。駅の東から踏切を渡り、住宅の中の坂道を北へ上る。

傍らには保久良神社への道標が立っている。表六甲から六甲へのハイキングコースとして、一番ポピュラーな道の一つである。

正面に保久良神社のある尾根筋を眺めながら坂道を登りきると天井川が流れ下る八幡谷の入口。　保久良神社へは右に車道があり、山を登るのですが、

まっすぐ川に沿って公園を抜けて、山道を登って保久良神社へ行く。

緑に包まれた林の中　ほどなく傾斜が緩くなり、尾根の上　保久良神社の境内に。すぐ前には尾根筋を金鳥山を経て　六甲へ上る案内標識が見える

突然 尾根の上にある保久良神社の境内で　イノシシに遭遇

えぇ!!　住宅地のすぐ上　保久良神社にもイノシシがいるのか・・・・・

この尾根筋の上　風吹岩周辺には以前からイノシシの親子が出てくると知っていたので、　尾根筋でイノシシに出会うかも・・・・と思っていましたが。。。

いきなりの出会いにびっくり。

南北に延びる尾根の先端にある保久良神社　正面鳥居前からは東神戸の市街地から大阪湾が一望　絶好の展望地に整備されていました。市民憩いの場所でもあるが、緑に包まれた静かな森。かつて神社が焚く篝火が沖行く船の航行の目印であり、境内には幾つも巨岩の磐座があり、神宿る森。そんな雰囲気が漂う静かな森である。

東灘市街地の展望を楽しんだ後、境内を抜けて、北へ尾根筋を登ったところに金鳥山・六甲最高峰・有馬への案内板があり、緑の樹木に包まれた心地よい尾根筋の登山道　緑を満喫しながら金鳥山から風吹岩へ登ってゆく。

少し登ったところで、樹木の中に左へ休憩所ありの標識、南側に展望の利く広場。　北側は樹木に覆われていましたが、このあたりが金鳥山頂上周辺で、六甲アイランド周辺が遠望できました。また、北の林の中に金鳥山の頂上探しましたが、三角点を見つけられず。視界が開けず通過して、元の登山道に出て　登山道は金鳥山の北側への下り坂の道に。

保久良神社から３０分ほど金鳥山を北に下り終えたところが西へ八幡谷・住吉谷の分岐点。ここから、道は熊笹の中。

熊笹を抜けると杉林の中。同じ尾根筋の林の中ですが、次々と森の様相が変化。また、山は花崗岩の山なのですが、この尾根筋道も土が真砂土・赤い粘土質だったり、土砂だったり、場所場所で一機に色々変化していて面白い。六甲山そのものが長い年月の中で、さまざまに変化してきた歴史なのだろうと。

緑の中を抜けるとＴ字路に出て、南から登ってきた古道「魚屋道」に合流する。　芦屋の弥生の高地性集落「会下山遺跡」から上へ登り、魚屋道に合流して風吹岩へ登ってくる道で。以前何度かこの道も登ったことがある道だ。　ここまでくると風吹岩はもうすぐ。

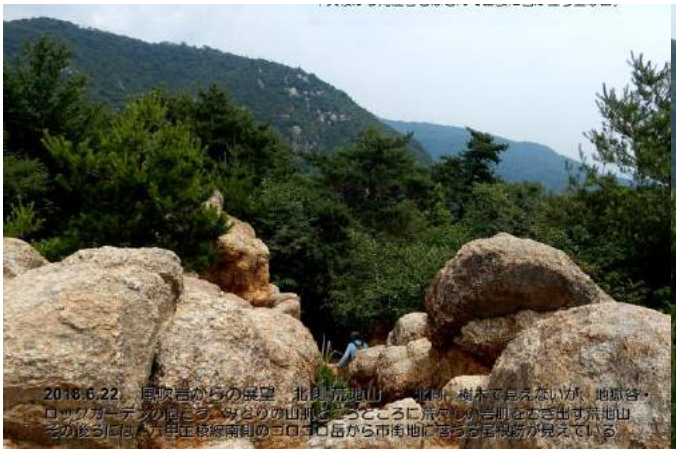
また、空が開けて　明るい尾根筋道に　次々とコブを超えて登る度に　森の色が次々と変化して美しい。

空が明けて道がだんだん急になり、岩肌が露出したゴロゴロ道の登りに　風吹岩近しと。

ゴロゴロ道を登りきると右に大きな岩壁の出口に飛び出し、ぱっと視界が開けたＴ字路。今見た岩壁が風吹岩。1102

保久良神社から、約１時間で３６０度の大展望が開ける風吹岩の上に立ち、久しぶりに周囲の山々や霞んではいるが、大阪湾の遠望　そして六甲の山を渡りゆく送電線等々　記憶を思い起こしながら大展望を楽しみました。

2018.6.22. 風吹岩から眺める南側 東灘市街地の展望



2018.6.22.　西側には　日本のロック・クライミングの発祥地　岩肌を随所にむき出す荒地山

荒地山はロックガーデンの中央稜から高座谷をはさんで山腹に岩が立ち並ぶ山。多くのクライマーが訪れる山である。
まだ　梅雨時　期待道理には行きませんでしたが、岩の上に立ってぐるりと体を１回転させて眺める３６０度の大展望
実に爽快でした。風吹岩の展望をそうそうに切り上げ、樹林帯の中　尾根筋を下って東お多福山へ向かう　11:10
すぐに打越山別れ・荒地山の別れの標識を過ぎ、樹林の中　黒五谷の谷川を渡るといよいよ東お多福山の尾根筋にとりつく。
東お多福山南斜面山腹に広がる芦屋 GC の中を通過して、山腹を登るとほどなくお多福山稜線南端　雨ケ峠到着である。

芦屋 GC.をトラバースして、東お多福山の尾根上の雨ケ峠へ　芦屋 GC.入口(打越峠・住吉谷分岐)11:33

20 分弱で斜面を登り切り、南北に延びる東お多福山の稜線尾根の南端、樹木に包まれた雨ケ峠に到着　12:00
ここからまっすぐ北へなだらかな稜線尾根を登れば、東お多福山。
六甲最最高峰・有馬への道「魚屋道」は西へお多福山の稜線を乗越してゆく。

雨ケ峠から北へなだらかな頂上稜線を少し歩くと視界が開け、広い山草原が広がる東お多福山山上である

東お多福山の山頂は山上の一番北の端　この草原を越えた奥である

お多福山山上からながめる六甲稜線　左に電波塔のある西お多福山　右中央鉄塔の見える六甲最高峰

是非　遠い朧気の記憶しかない東お多福山の草原　こんなに美しく整備されて、初夏に咲く山野草にも出会えた。
西六甲にはない草原の山　緑が目にしむ　草原に寝転んで　こんなに近くに　六甲稜線の鉄塔も見られました。
もっと早く来るべきだったと　うれしい出会いに大満足。　頂上へは北へ　もう一つ丘を登る

東お多福山には三角点はなく　山頂広場北の端に
左:雨ケ峠　右:東お多福山バス停　後:土樋割峠を越えて最高峰(石宝殿)のコース標識が建っている
この柱に「ここは東お多福山です」と書かれていて、
これが山頂標識の代用?
また、この山頂広場からは東側がオープンで、芦有道路沿い山中に開かけた街「奥池」が見える。
その奥が大阪湾沿岸の市街地が遠望されるのですが、やはりぼんやりとしか見えず。

東お多福山からの展望【1】　2018.6.22.
視界の開けた東側には芦有道路沿い山中に開かけた街「奥池」が見える

東お多福山からの展望【2】　2018.6.22.
目を南東側に転ずるとうっすら西宮の沿岸部がみえるが全体にかすんでよく見えない。
やっぱり　梅雨の晴れ間です

東お多福山から奥池へ降る　2018.7.22.　12:32
念願だった東お多福山に登れ、梅雨の晴れ間　霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、六甲の稜線をバックに初夏の花咲く心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯でお多福山山頂を後にして、東の芦有道路に登山口とバス停がある「奥池」へ下る。
芦有道路が開通してできた山中の高級住宅地。ハイキングの地だったのですが、一番短く下山できて、バスに乗って阪急芦屋川駅に行ける。また、六甲山上稜線や住吉谷からの下山口でもある一度行ってみたかった場所でもある。

東お多福山山頂から山上を東へ　正面の奥池の街に向かって下ってゆく　2018.6.22

六甲山
林山
本山町谷
土樋割峠
奥池登山口
東おたふく山
西おたふく山
住吉谷
雨ケ峠
芦屋市
東灘

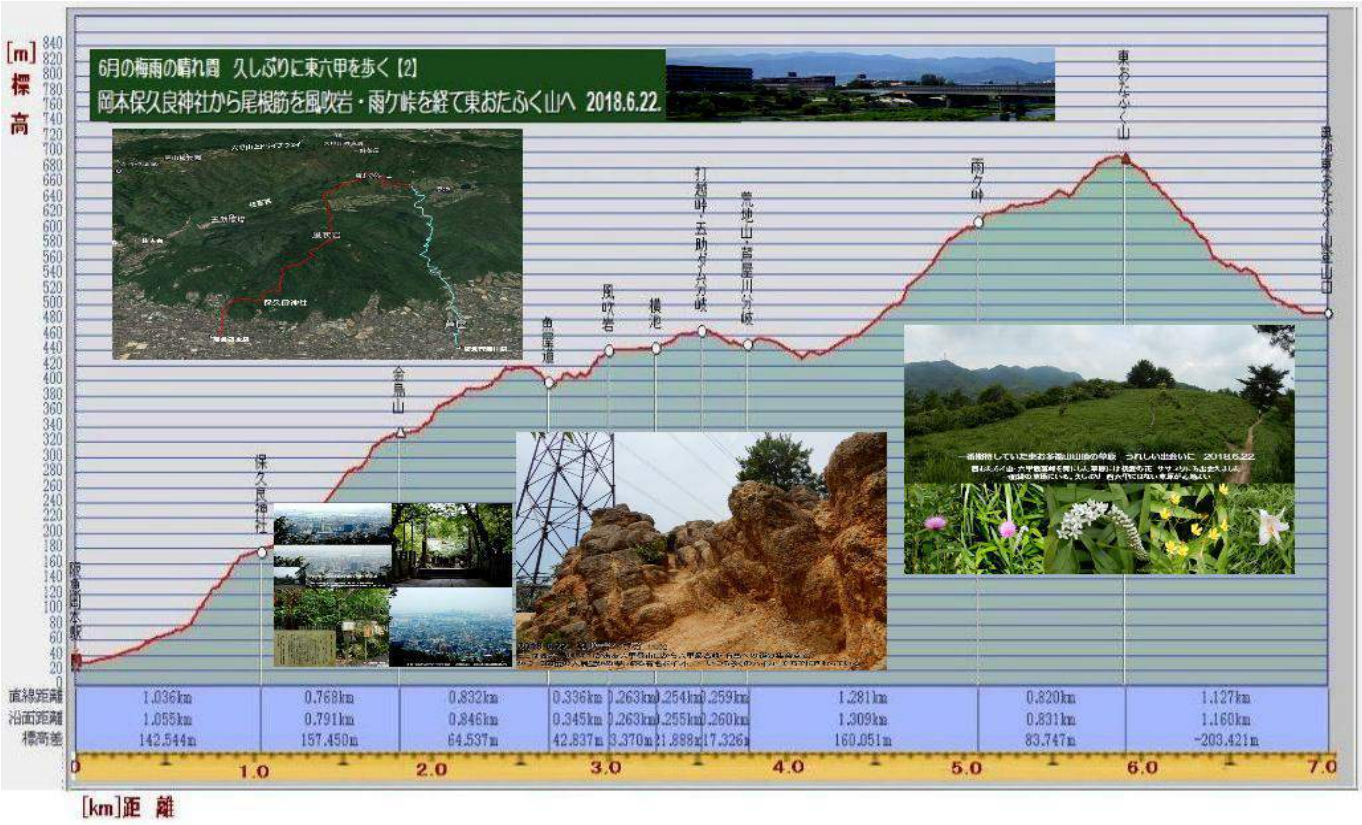
山上を後に、一機に樹林の中　急な坂道になって下ってゆく　12:37
歩きにくい山道でしたが、15分ほどで　奥山の配水塔の横に出るが、
全くの人影出られず、山腹を北へ進いてゆく　12:48
山道を下り終えて小さな谷川を渡り、土樋割峠から下ってきた舗装道路に合流　12:56

芦有道路奥池　東お多福山登山口バス停に到着　2018.6.22.13:03

梅雨の晴れ間　霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、
念願だった東お多福山に登れ、六甲の稜線をバックに初夏の花咲く
心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯のうれしい東お多福山 walk
眼下に東灘の沿岸部を見下ろす保久良神社・久しぶりの巨岩 風吹岩・
芦屋 GC を横切りまじかにみる六甲稜線等々
岡本駅から２時間ほどの中でゆっくりと　この変化に富んだ展望コースを歩け、頂上からの下りが短いのも年寄りには魅力です。
また、奥池の街に降りて芦有道路を阪急芦屋へ下るバスに乗るのも初めて。もっとバス賃が高いと思いましたが、案外安いのにもびっくり。
いつも気になっていたお多福山　すっきりしました。
でもやっぱり一番は西六甲にはない緑の草原かなぁ
ぜひ今度は展望が聞く時期にと。
よく整備された芦有道路をバスで下りながら

2018.6.22.　午後　　Mutsu Nakanishi

岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東お多福山へ　2018.6.22.



2018 6月 梅雨の晴れ間 久しぶりに 東六甲を歩く

1. 六甲高山植物園より六甲最高峰を経て
久しぶりに住吉谷を下る 2018.6.14.

2. 岡本 保久良神社から尾根筋を風吹岩・
雨ケ峠を経て東おたふく山へ 2018.6.22.

梅雨の晴れ間 久しぶりに六甲山上 Walk
東六甲の六甲高山植物園・六甲山最高峰へ
長いこと歩いていない東六甲の住吉谷を下りました。
また 別途 以前から気になっていた六甲越の古道・
東おたふく山への道を辿りました。

もう何十年も歩いていない住吉谷・おたふく山
雨上がりで美しい新緑の中を種々初夏の野草にも出会
え、うれしいwalkでした。

6月の梅雨の晴れ間 久しぶりに東六甲を歩く【2】
岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東お多福山へ 2018.6.22.
ずいぶん久しぶりのルート 草原が広がるお多福山から奥池に降りる
いつも気になっていた東六甲お多福山 楽しいハイクでした

2018 Walk
09

Country Walk【17】2018

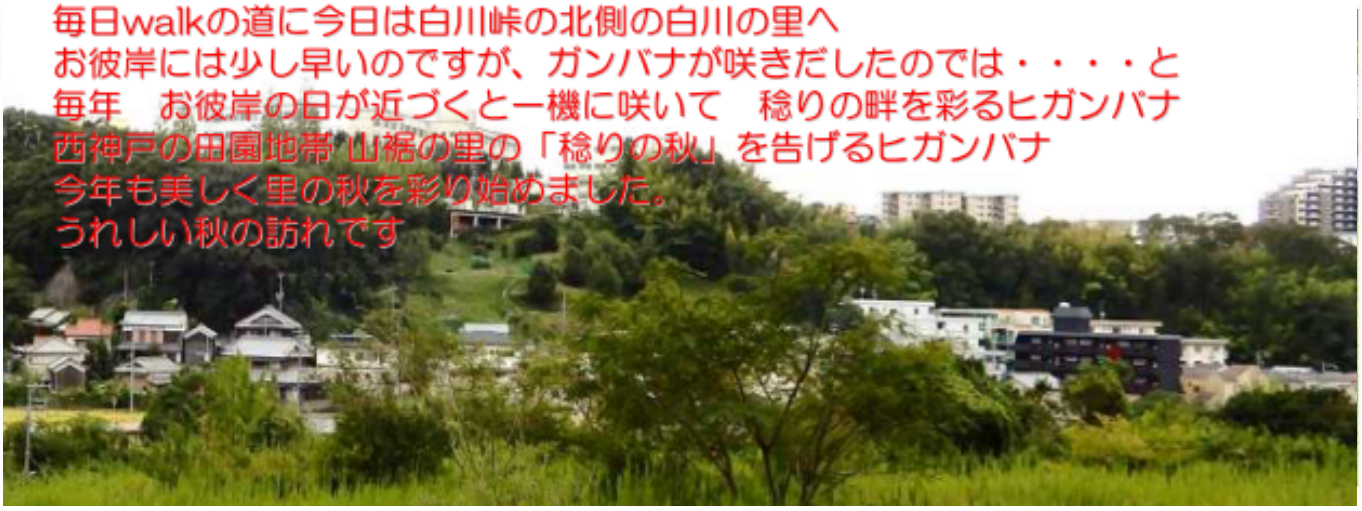
【Photoアルバム】

うれしい秋の訪れ　西神戸・東播磨　2018初秋

西神戸 & 西播磨 の 里の秋　小さい秋　みぃ～つけた!!

1. 初秋の西神戸
   みのりの田園地帯を彩る彼岸花　白川&伊川谷の里で
2. 初秋の東播磨
   志方広尾集落から福甸峠を超えて小野市きすみのを訪ねる
   コスモスの里志方広尾&福甸峠から見るきすみの棚田・きすみののそば畑
3. 東播磨　酒米　山田錦の郷に秋を告げる風物詩
   中国道沿い加東町から三木市吉川
   酒米の田の畦にはためく酒蔵の旗　加東町木梨の郷ほかで

毎日walkの道に今日は白川峠の北側の白川の里へ
お彼岸には少し早いのですが、ガンバナが咲きだしたのでは・・・・と
毎年　お彼岸の日が近づくと一機に咲いて　稔りの畔を彩るヒガンバナ
西神戸の田園地帯 山裾の里の「稔りの秋」を告げるヒガンバナ
今年も美しく里の秋を彩り始めました。
うれしい秋の訪れです



初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.

1. 初秋　西神戸
みのりの田園地帯を彩る彼岸花　白川&伊川谷の里で
1. 西神戸 白　川の里の彼岸花
2. 西神戸 押部谷の里の彼岸花
嬉しい秋の訪れ　西神戸・東播磨　2018初秋

西神戸 伊川谷上脇集落で 2018.9.26.

西神戸 伊川谷　上脇集落で　2018.9.26.

西神戸 伊川谷上脇で 2018.9.26.

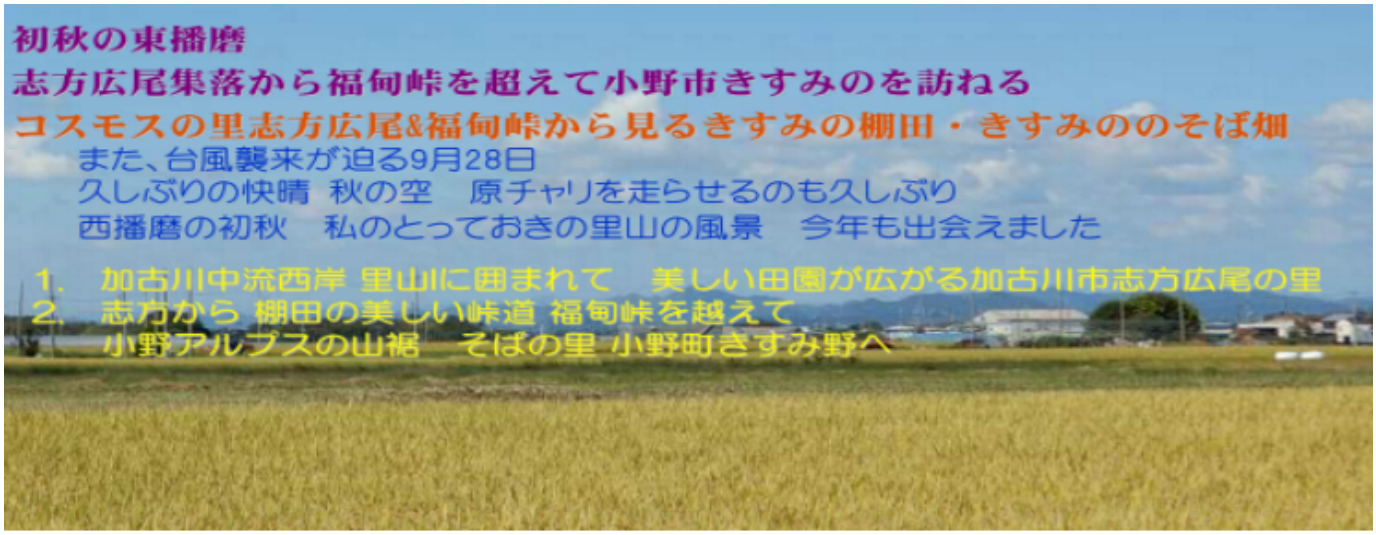
2018.9.26. 西神戸 伊川谷　小寺集落で

2018.9.26. 西神戸 伊川谷　小寺集落で

2018.9.26. 西神戸 伊川谷　小寺集落で

2018.9.26. 西神戸 伊川谷 小寺集落で

伊川谷 小寺の清水さんちの
新米も届きました
2018.9.26.


初秋の東播磨
志方広尾集落から福甸峠を超えて小野市きすみのを訪ねる
コスモスの里志方広尾&福甸峠から見るきすみの棚田・きすみののそば畑
また、台風襲来が迫る9月28日
久しぶりの快晴 秋の空 原チャリを走らせるのも久しぶり
西播磨の初秋 私のとっておきの里山の風景 今年も出会えました
1. 加古川中流西岸 里山に囲まれて 美しい田園が広がる加古川市志方広尾の里
2. 志方から 棚田の美しい峠道 福甸峠を越えて
小野アルプスの山裾 そばの里 小野町きすみ野へ

久しぶり快晴に 野に出て楽しむ子供たち 2018.9.28. 西神戸 神出の里で

加古川上荘橋を西へ渡って 加古川中流 西岸の丘陵地の里山
◆ 黄金色の田園が広がる加古川市志方 広尾の里
2018.9.28. 西播磨 加古川中流 西岸の丘陵地の里山 加古川市志方 広尾の里

2018.9.28. 西播磨 加古川中流 西岸の丘陵地の里山 加古川市志方 広尾の里
ピンクのコスモスの時期とはまた異なる里山です

2018.9.28. 西播磨 初秋の里山 加古川市志方 広尾の里

中国道沿いの丘陵地の中を東へ福甸峠を越えて小野きすみ野へ
加古川市志方　野尻の里　2018.9.28.
この時期　里山の中　白いそば畑が美しい山郷ですが、少し早かった

2018.9.28.　小野アルプス　福甸峠から眺める峠道の棚田
四季折々　楽しい峠道の棚田です

2018.9.28.　小野アルプス　福甸峠から眺める峠道の棚田
四季折々　楽しい峠道の棚田です

2018.9.28.　小野アルプス越　福甸峠の峠道　峠の下　福甸町より

2018.9.28.　福甸峠の峠道を下って　田園が広がるきすみ野へ
そば畑の白い花を見て、JR小野町駅のそばを食べるのも楽しみ

2018.9.28.　小野アルプスの麓　きすみ野のそば畑はっと目に飛び込んできた
少し　時期的に成早かったようですが……

2018.9.28.　小野アルプスの峰山を背に　きすみ野のそば畑

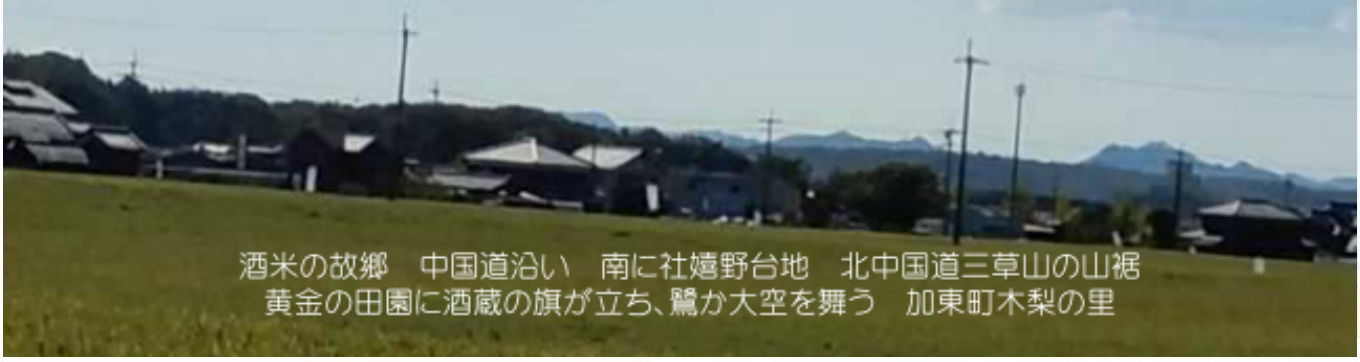
うれしい秋の訪れ　西神戸・東播磨　2018初秋
西神戸 & 西播磨 の 里の秋　小さい秋　みぃ～つけた!!

3. 東播磨 酒米山田錦の郷に秋を告げる風物詩
酒米みのりの田の畦にはためく酒蔵の旗

中国道沿いの丘陵山裾　加東町木梨から三木市吉川・細川へ

剣菱が育てた酒米「愛山」の里　加東町木梨

【参考】 東播磨の田園に初秋を訪ねる　**2015東播磨 酒米の郷に秋を告げる風物詩**
剣菱が守り抜いてきた酒米「愛山」の話を収録しています
http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/walk12/1510kakogawa00.htm
加古川中流の滝野 闘竜灘 & 彼岸花の里　多可町 ・ 酒米「山田錦」の里　加東・三木吉川



酒米の故郷　中国道沿い　南に社嬉野台地　北中国道三草山の山裾
黄金の田園に酒蔵の旗が立ち、鷺か大空を舞う　加東町木梨の里

酒米の故郷　加東町木梨の里　黄金の田園に酒蔵の旗が立ち、鷺か大空を舞う
中国道沿いの南に社嬉野台地　北中国道三草山の山裾に広がっている　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

酒米の故郷　加東町木梨の里　2018.9.28.

獺祭
酒米の里の初秋　田の畔ではためく酒蔵の旗
酒米の故郷　加東町木梨から東の三木市口吉川へ　2018.9.28.

口吉川　東花青葉　酒の棚田　2018.9.29.

口吉川　蓮花寺集落の棚田　2018.9.28.

蓮花寺集落を下って　口吉川細川の田園地帯に出て、神戸へ戻る　2018.9.28.
一日原チャリで　黄金色の田園地帯を走って、
里山の連なる西播磨の初秋を眺めることができました。
毎年のおだやかな里の秋にほっとする一日　ルンルンで帰途に。

蓮花寺集落を下って　口吉川細川の田園地帯に出て、神戸へ戻る　2018.9.28.
一日原チャリで　黄金色の田園地帯を走って、
里山の連なる西播磨の初秋を眺めることができました。
毎年のおだやかな里の秋にほっとする一日　ルンルンで帰途に。

うれしい秋の訪れ　西神戸・東播磨　2018初秋
西神戸 & 西播磨 の 里の秋　小さな秋　みつけ～つけた!!
1. 初秋　西神戸
みのりの田園地帯を彩る彼岸花　白川伊川谷の里で
1. 西神戸 白　川の里の彼岸花
2. 西神戸 押部谷の里の彼岸花
嬉しい秋の訪れ　西神戸・東播磨　2018初秋
西神戸 伊川谷小寺で
2018.9.26.

初秋 白川の里で　2018.9.17.

森本の彼岸　坂越町本梨の里　2018.9.28.

2018.9.28.　小野市秋ノ子　福崎峠から眺める峠道の棚田
西を望む　美しい峠道の棚田です

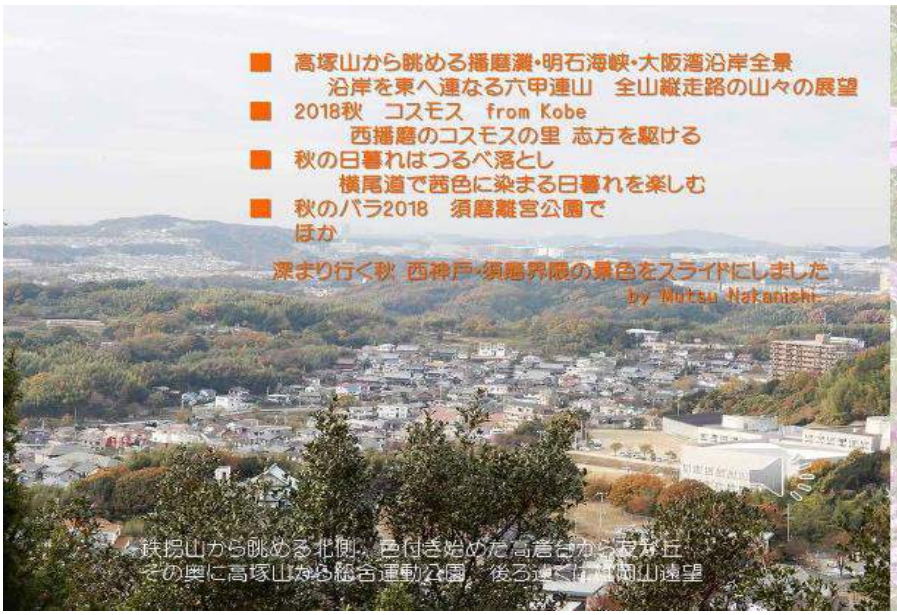
森本の彼岸　坂越町本梨の里　2018.9.28.

2018 Walk
10

2018 西神戸・須磨界隈　10月 深まり行く秋点描

小さな秋 みぃ～つけた　気ままな須磨・東播磨のwalk

澄みわたる空に爽やかな風が吹き渡る秋　各地からコスモスの便りも届く
須磨の浦の海を見下ろす山の縦走路ではコスモスの花が風に揺れ、街の街路樹も色づきはじめました
毎年かわらぬ深まり行く秋の須磨・東播磨の秋 walk ですが、小さい秋みぃ～いつけ!!2018 をスライドに



南の須磨の浦に沿って 西六甲の山々が連なる私の住む妙法寺・北須磨界隈
丘陵地が広がる山裾や岡には緑に包まれてニュータウンの街々が広がり、その西には広大な東播磨の田園地帯に西神戸の田舎が点在する。街と里　山と海を楽しめる気ままな散歩道　秋晴れの午後　今日はどこを歩こうかと。
須磨・東播磨の深まり行く秋　相変わらずの気ままな walk で見つけた「ちいさい秋」2018 年のアルバムをスライド動画にまとめ、BGM をつけて、秋の夜長を楽しんでいます。

2018 10月 深まり行く秋点描 Album　抜粋

■ 高塚山から眺める播磨灘・明石海峡・大阪湾沿岸全景
　沿岸を東へ連なる六甲連山　全山縦走路の山々の展望
■ 2018秋　コスモス　from Kobe
　西播磨のコスモスの里 志方を駆ける
■ 秋の日暮れはつるべ落とし
　横尾道で茜色に染まる日暮れを楽しむ
■ 秋のバラ2018　須磨離宮公園で　ばか

彼岸花が田んぼの畔を飾る10月後半　やっと天候も落ち着き、秋晴れに。
田園では米の収穫、野焼きの煙が立ち上っています。
田園が広がる西神戸では、イチジクやなし・栗そして黒豆など　秋の果実もとりどり
うれしい秋の直売場。なんとか異常気象に持ちこたえたようでうれしい限り。

ふと見る庭の柿の木には実がいっぱい。今日はメジロが実を突きに来ています。
孫の運動会・学園祭やクラブの大会にの応援にも。
「疲れるなぁ」と言いながらもうれしい秋です

◎2018. 10. 12.

台風一週　戻ってきた秋晴れ
久しぶりに学園都市の高塚山に登ると明石海峡から西六甲連山全体の素晴らしい展望
左に大阪湾　右に播磨灘が広がる真正面明石海峡の向こうに淡路島が一望。
東に目を向けると神戸の市街地を前に須磨から宝塚へ続く六甲連山の全景が見える。
やっと見れた景色です。

◎2018. 10. 26.

各地からもコスモス開花の便りが届き、
丘に登ると秋桜・コスモスが 風に身を揺らしています。
清楚でありながら生命力の強い外来の花　日本人の心にそっと入り込んで咲く日本の花に。

今年は夏の異常気象で雑草がはびこる不作の年になりましたが、
今年も東播磨の田園をピンクに染める美しいコスモス畑。
うれしい出会いになりました。

◎2018. 10. 15.

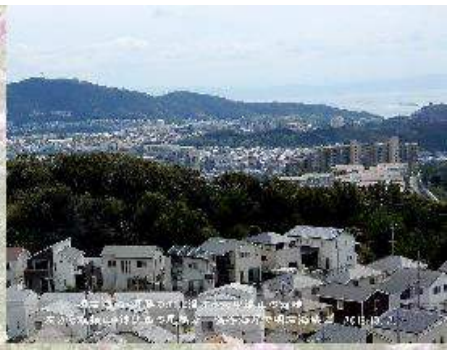
秋の夕暮れはつるべ落とし。
茜色に染まり刻々と変化する夕日を眺めながらのwalkは毎日の楽しみ。

この夕暮れをデジカメに収めようとするのですが、
なかなかうまくゆかず。
やっと1枚茜色の空をバックに播磨灘に浮かぶ家島群島に沈む夕日が撮れました。

◎ 2018. 10. 26.

ばらの香りの散歩道　午後のひとときをゆったりと
須磨離宮の庭園で、秋のバラが咲きだしました。
春のバラとは違って、大輪のバラが主。
アンネのばら・プリンセス ダイアナのばら・プリンセス ミチコのばら等々
名前はまったく覚えられませんが、そっと顔を近づける。

◆ 2018秋　コスモス　from Kobe　西播磨のコスモスの里を駆ける



◆　2018 秋　コスモス　from Kobe　西播磨のコスモスの里を駆ける

◆　播磨灘に沈む夕日　秋の日暮れはつるべ落とし　横尾道で茜色に染まる夕日を楽しむ

◆　秋のバラ２０１８　バラの香りの散歩道　須磨離宮公園で

さわやかな秋の風　深まり行く秋を元気に!!

2018年秋　Mutsu Nakanishi from Kobe

＜参　考＞

＊＊＊

小さい秋　みぃつけた!!
2018 西神戸・須磨界限
10月 深まりゆく秋 点描
須磨・東播磨walkより
相変わらずいろいろとまるwalk 続けています
Mutsu Nakanishi
2018.10.31. from Kobe
妙法寺若草町の丘から眺める南の須磨アルプス馬の背

1日8000歩Walk 周辺地図

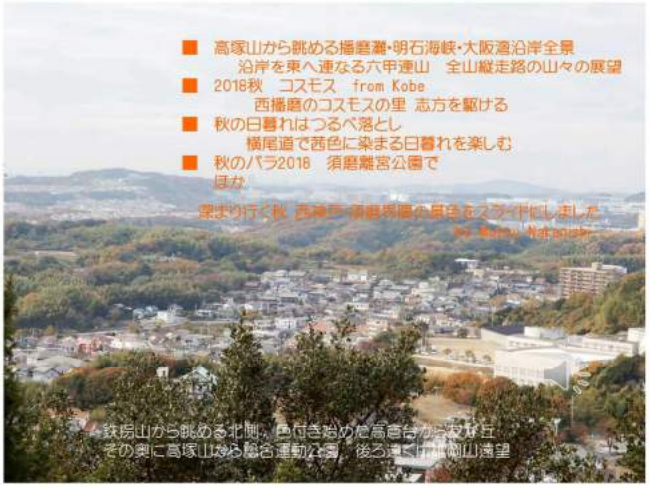
外来の花ながら
日本人の心にそっと入り込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花
須磨浦の海を見下す高倉山山上のコスモス　2018.10.15.
澄み渡る空に爽やかな風が吹き渡る秋　各地からコスモスの便りも届く
よく整備されたおらが山の縦走路　須磨の浦の海を見下ろして咲くコスモス
が風に揺れています

高倉台で

2018. 10. 20.

Instagram
OHS_CAMERA
秋のたのしみ
孫の学園祭にも参加しました　2018.10.20.

孫の学園祭に参加　2018.10.20.



西神戸 学園都市 高塚山から眺める明石海峡 & 六甲全山の全景　2018.10.12.

明石海峡・須磨の浦に没する六甲連山の西端
左から旗振山・鉢伏山の尾根が　塩谷海岸で明石海峡に　2018.10.12.

西の鉢伏・旗振山から東へ連なる六甲連山　須磨アルプス　高取山
2018.10.12.西神戸学園都市 高塚山より

遠く高取山の東に菊水山から六甲山頂へ立ち並ぶ六甲連山遠望
手前にはグリーンスタジアム神戸　・名谷ニュータウン・鵯越の山麓バイパス沿いの街
2018.10.12.　西神戸学園都市 高塚山より

西神戸学園都市　高塚山から眺める六甲連山　全景　2018.10.12.

西神戸学園都市　高塚山から眺める六甲連山遠望　2018.10.12.

コスモス　2018
from Kobe　Mutsu Nakanishi
外来の花ながら
日本人の心にそっと入り込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花
須磨浦の海を見下すコスモス
澄み渡る空に爽やかな風が吹き渡る秋　各地からコスモスの便りも届く
よく整備されたおらが山の緩走路
須磨の浦の海を見下ろして咲くコスモスが　風に揺れています

秋の風に揺らぐ秋桜・コスモス
ギリシャ語の Kosmos から　英語の Cosmos
その意味は「美しさ・調和・宇宙」と
自然の美しさを表す
2018秋　from Kobe　Mutsu Nakanishi

コスモス 2018
今年初めて見た広大な田園が広がる
東播磨稲美のコスモス畑
2018.10.19.　東播磨　加古川市稲美野 の コスモス畑

秋の風物詩を見て楽しもう!!
コスモスまつり
2018.10.19.　東播磨　加古川市稲美野 の コスモス畑

2018.10.19.　東播磨　加古川市稲美野　のコスモス畑

コスモス 2018　2018.10.19
東播磨　加古川市志方のコスモス畑
各地から届くコスモス開花の便り
今年も東播磨の田園にコスモス畑を
訪ねました。
今年は夏の異常気象で　コスモス畑は
雑草がはびこる不作の年に・・・・・
でも　田園をピンクに染める美しい
コスモス畑に出会えました
今年も東播磨 志方のコスモスの里を訪ねました

加古川に架かる上荘橋を渡って、西に片勝地が続く山間に入って間もなく、
志方の里の入口から、北西へ志方の里の田園地帯に入る。
一番先に城山の麓にある志方広尾の里へ。　今年のコスモス畑は南に飯盛山を
正面に眺める池周辺の段々畑。　一番好きな広尾の里の場所。
今年も素晴らしいコスモス畑の景色に出会えました。
コスモス2018　東播磨 加古川市志方　広尾の里のコスモス畑　2018.10.19

城山の山裾　集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑　2018.10.19

コスモス2018　東播磨 加古川市志方　広尾の里のコスモス畑　2018.10.19

城山の山裾　集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑で　2018.10.19

秋の風に揺らぐ秋桜・コスモス
清楚でありながら　生命力の強い外来の花ながら
日本人の心にそっと入り込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花
ことしもうれしい出会いに
城山の山裾　集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑で　2018.10.19

コスモス2018　東播磨 加古川市志方　広尾の里のコスモス畑　2018.10.19

城山の山裾　集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑で　2018.10.19.

広尾の里のコスモス畑からながめる南の田園と飯盛山　2018.10.19.

城山の山裾　集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑　2018.10.19.

北西に広がる志方の田園地帯を中央部の高畑・東飯坂の里へ
毎年一番賑やかで、田園地帯いっぱいにピンクの帯が広がる美しいコスモス畑の場所である
でも、今年はどうも様子が違う。コスモス畑の花の数が少なく、雑草が多い。
数年前も一度こんな事がありましたが、どうもこの夏の異常気象にやられたようだ。
そんな中に花を摘んでいる子どもたちがいる。　精一杯 咲いたのだなぁ・・・と。

加古川市志方の中央　高畑の里のコスモス畑で　2018.10.19.

山に囲まれた志方の中央　送電線が渡る志方高畑の里　コスモス畑 / 2018.10.19.

夏の異常気象で　コスモスの数が少ない
加古川市志方の中央　高畑の里のコスモス畑で　2018.10.19.

夏の異常気象で　コスモスの数が少ない
加古川市志方の中央　東飯坂の里のコスモス畑で　2018.10.19.

田園地帯の中央の平地にある高畑・東飯坂のコスモス畑が今年の異常気象で
随分と様子が変わってしまった。
田園地帯の南の端の高台から、*また来年! 元気な姿で会おう!!* と

ここから北へ城山の裏側に回り込んで、野尻の里のコスモスを見て、
福伺峠からきすみ野を経て帰える。

野尻の里のコスモス畑も夏の異常気象にやられたように
この里も夏の異常気象でコスモスの数が少ない
志方城山の北側の山間　志方野尻の里のコスモス畑　2018.10.19.

志方城山の北側の山間　志方野尻の里のコスモス畑　2018.10.19.

野尻の里から、東へ小野アルプス紅山 の北側　小野市福甸峠で
2018.10.19.

つい数週間前には黄金色に埋まっていた福甸峠の景色もすっかり様変わり。
収穫の終わった姿に。　棚田がまた違った姿に見えて美しい。
数週間前　志方の田園を走ったときには秋のコスモスに期待一杯でしたが、
自然の驚異にびっくりです。
確かに毎年新聞に載る志方のコスモス畑が掲載されず、ちょっとおくれて
いるのかなぁ・・・・と思っていました。
志方の郷のコスモス畑の1日を思い浮かべながら
加古川の土手を帰ってきました。
また、来年!! 元気な姿のコスモス畑に会いに来ようね
こっちも負けぬよう元気に今を!!と
Mutsu Nakagishi
野尻の里から、東へ紅山の北側　小野市福甸峠で　2018.10.19.

コスモス2018　東播磨 加古川市志方　広尾の里のコスモス畑　2018.10.19

コスモス2018　東播磨 加古川市志方　広尾の里のコスモス畑　2018.10.19

秋の風に揺らぐ秋桜・コスモス
清楚でありながら　生命力の強い外来の花ながら
日本人の心にそっと入り込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花
ことしもうれしい出会いでした
城山の山麓　東播磨上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑で　2018.10.19.

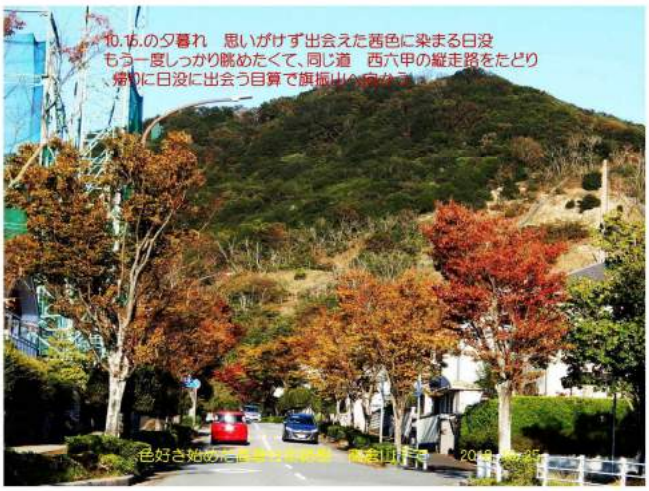
秋の日暮れはつるべ落とし
横尾道で　茜色に染まる日暮れを 楽しむ
今日も先日眺めた日没が見られそう
横尾道 & 西大中縦走路 で

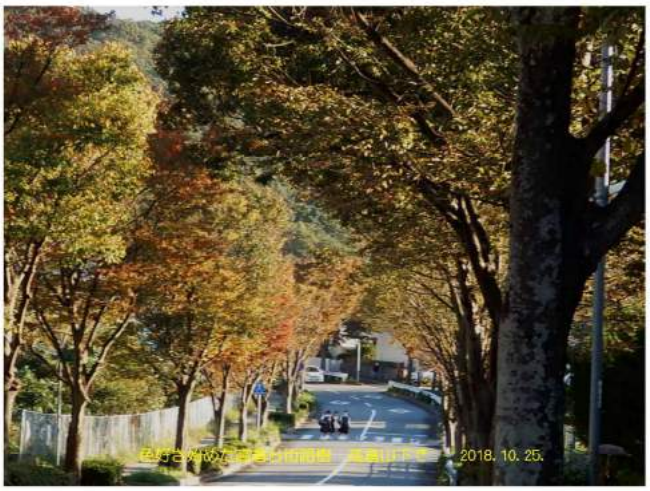
10.15. の夕暮れ　思いがけず出会えた茜色に染まる日没
快晴になった今日の午後　もう一度しっかり眺めたくて、
同じ道　西六甲の縦走路をたどり、帰りに日没に出会う目算
日没　播磨灘に沈む夕日【1】 10.15. 17:30
秋の夕暮はつるべ落とし　随分はやくなった日没　海峡は茜色に
明石海峡へ落ちる日没　2018.10.15.　高倉山で

播磨灘に沈む夕日【2】 10.15. 17:30頃
明石海峡へ落ちる日没 2018.10.15. 高倉山北斜面より

日没　播磨灘に沈む夕日【3】 10.15. 17:30
秋 日没　播磨灘男鹿島に沈む夕日　2018.10.15.　横尾道で

日没 播磨灘に沈む夕日【4】 10.15. 17:30
秋 日没　播磨灘男鹿島に沈む夕日　2018.10.15.　横尾道で


10.15.の夕暮れ　思いがけず出会えた茜色に染まる日没
もう一度しっかり眺めたくて、同じ道　西六甲の縦走路をたどり
帰りに日没に出会う目算で旗振山へ向かう


2018. 10. 25.

縦走路に出ると快晴の空　須磨浦の沖海苔養殖の筏がくっきり見える
高倉山上より　2018. 10. 25.

秋の午後　弱くなった日差しが差し込んで色合いを深くする
高倉山から鉄拐山への縦走路で　2018. 10. 25.

秋の午後、弱くなった日差しが差し込んで色合いを深くする
高倉山から旗振山への縦走路で　2018. 10. 25.

夕暮れが近くなった秋の午後　旗振山山頂で【1】
明石海峡が照り輝いて夕暮れ近し
帰り道で日没が見られそうだ　2018. 10. 25.

夕暮れが近くなった秋の午後　旗振山山頂で【2】　2018. 10. 25.

夕暮れが近くなった秋の午後　旗振山山頂で【3】　2018. 10. 25.

高倉台のバス道路まで戻ってくるとも西の空が染まり始めている
急いで、絶好の夕日ポイント　横尾道　野路菊の丘周辺へ戻る
2018. 10. 25.

明石海峡の西　播磨灘へ沈む夕日　横尾道より　2018. 10. 25.

明石海峡の西　播磨灘へ沈む夕日　横尾道より　2018. 10. 25.
ズームアップすると薄っすらと播磨灘に浮かぶ男鹿が見え、男鹿島に沈むようだ

17:12　日没　播磨灘　男鹿島に沈む夕日　横尾道より
2018. 10. 25.

17:12 日没 播磨灘 男鹿島に沈む夕日 横尾道より
2018. 10. 25.

17:12 日没 播磨灘 男鹿島に沈む夕日 横尾道より
2018. 10. 25.

播磨灘に沈む夕日 10.15. 17:30 日没
秋 日没 播磨灘男鹿島に沈む夕日 2018.10.15. 横尾道で

秋のバラ2018 須磨離宮公園 2018.10.26.
秋を彩る大輪のバラ
秋晴れの午後 バラの香りが漂う庭園で
Rose Festival
王侯貴族のバラ園

秋のバラ2018 須磨離宮公園 2018.10.26.

バラの香りの散歩道
午後のひととき さわやかに
秋のバラ2018 須磨離宮公園 2018.10.26.

秋のバラ2018 須磨離宮公園 2018.10.26.

秋のバラ2018 須磨離宮公園 2018.10.26.

秋のバラ2018　須磨離宮公園　2018.10.26.

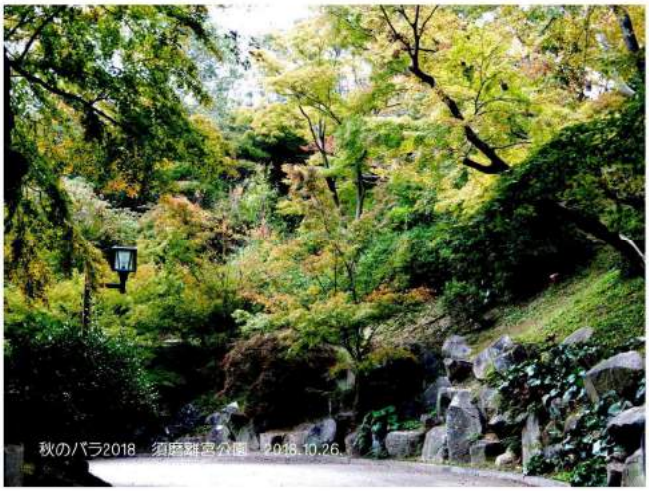
秋のバラ2018　須磨離宮公園　2018.10.26.

秋のバラ2018　須磨離宮公園　2018.10.26.

落ち着いた秋を彩る大輪のバラ
午後のひとときを　ゆったりと

秋のバラ2018　須磨離宮公園　2018.10.26.

秋のバラ2018　須磨離宮公園　2018.10.26.


秋のバラ2018　須磨離宮公園　2018.10.26.

西神戸 学園都市高塚山からの絶景　　2018.10.12.
正面に大阪湾と播磨灘を両手に淡路島　東に六甲連山
久しぶりに眺める明石海峡から六甲連山全体をぐるりと眺める眺望

西神戸 学園都市高塚山から
正面に　大阪湾と播磨灘を両手に淡路島　東に六甲連山全体が見渡せました。
久しぶりに眺める明石海峡から六甲連山全体をぐるりと眺める眺望でした。

小さい秋　みぃつけた!!

小さい秋　みぃつけた!!
秋の夕暮れ
思いがけず出会えた茜色に染まる日没
秋　日没　播磨灘男鹿島に沈む夕日　2018.10.15.　横尾道で

■ 高塚山から眺める播磨灘・明石海峡・大阪湾沿岸全景
沿岸を東へ連なる六甲連山　全山縦走路の山々の展望
■ 2018秋　コスモス　from Kobe
西播磨のコスモスの里 志方を駆ける
■ 秋の日暮れはつるべ落とし
横尾道で茜色に染まる日暮れを楽しむ
■ 秋のバラ2018　須磨離宮公園で
ほか
深まり行く秋 西神戸・須磨界隈の景色をスライドにしました
by Mutsu Nakanishi

小さい秋　みぃつけた!!
2018 西神戸・須磨界隈
10月　深まり行く秋点描
須磨・西六甲　相乗わらずのwalkより
Mutsu Nakanishi
2018.10.31. from Kobe
妙法寺若草町の丘から眺める南の須磨アルプス馬の背

野原の里から、東へ小野アルプス雄山 の北側　小野市福甲峠で
2018.10.19

秋の空に輝く秋桜・コスモス

■ 高塚山から眺める播磨灘・明石海峡・大阪湾沿岸全景
沿岸を東へ連なる六甲連山　全山縦走路の山々の展望
■ 2018秋　コスモス　from Kobe
西播磨のコスモスの里 志方を駆ける
■ 秋の日暮れはつるべ落とし
横尾道で茜色に染まる日暮れを楽しむ
■ 秋のバラ2018　須磨離宮公園で
ほか
深まり行く秋 西神戸・須磨界隈の景色をスライドにしました
by Mutsu Nakanishi

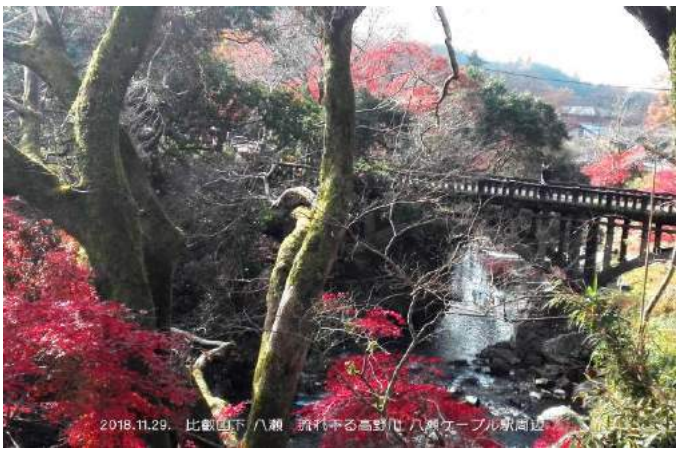
2018 Walk 11

【2018秋　photo Album】

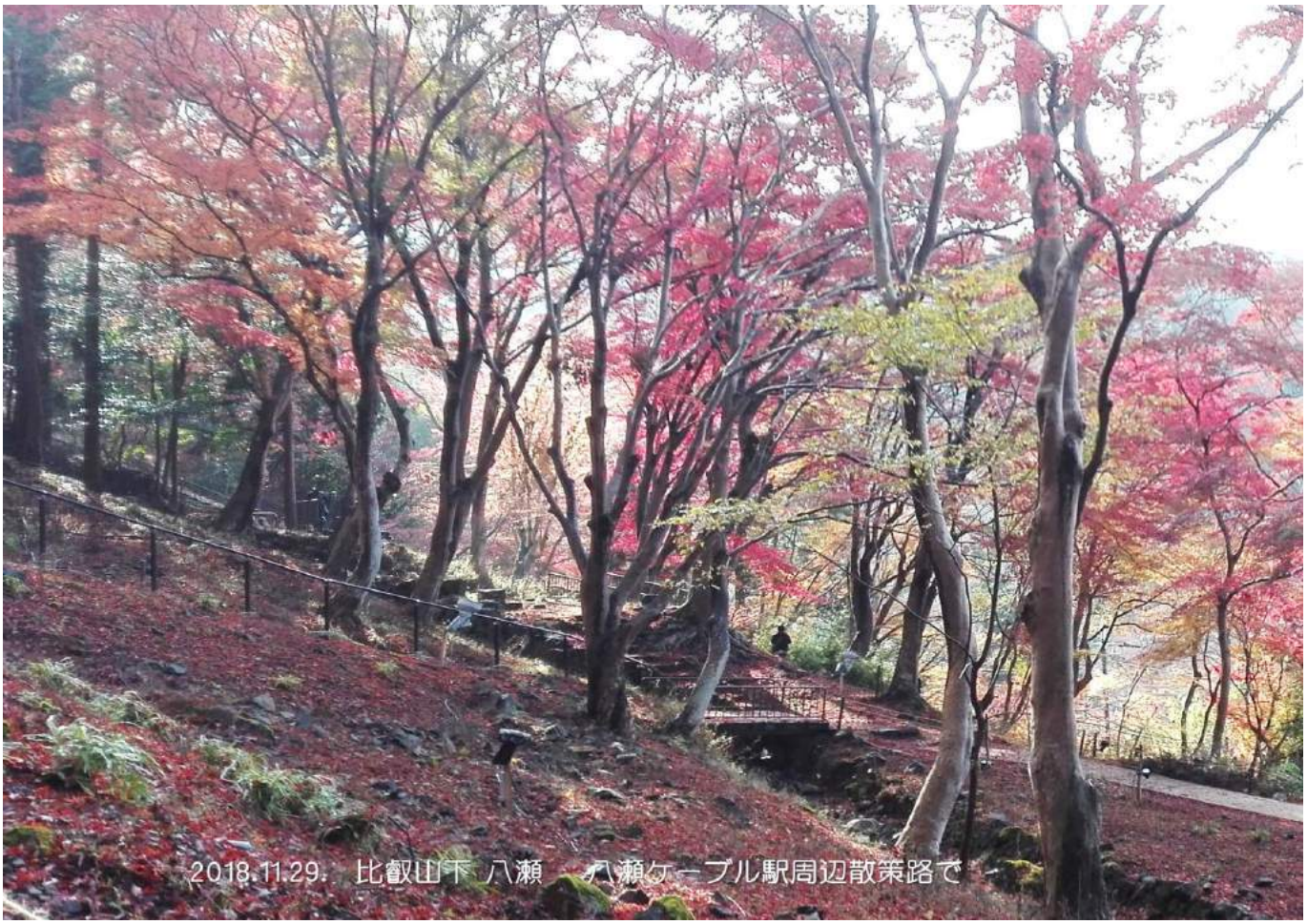
京都八瀬の真っ赤に染まった紅葉のトンネル　2018.11.29.

（左）京都北大路橋から眺める比叡山右手山裾が八瀬　（右）高野川が流れ下る比叡山下 八瀬

関西にいると山や谷を鮮やかな赤に染め上げる東北の紅葉がなつかしい
異常気象が続く中で迎えた今年の秋　最近　特に関西では真っ赤に色づく紅葉が寂しい限り。
今年は暖かい秋　神戸では特に色づきが悪かったといいます。
墓参にでかけた京都洛北の八瀬で思いがけず、真っ赤に色づいた紅葉のトンネルに出会えたので、
Photo Album にして　四季折々訪ねる手軽な京の田舎。比叡に登るもよし。大原や洛北散策の紹介を兼ねてのおすそ分け。京都の街に一番近い洛北八瀬の里　洛北の紅葉というとみんな大原まで出かけるのですが、高野川が流れ下る比叡山下八瀬ケーブル駅周辺は真っ赤な紅葉のトンネル。　見上げる比叡の山体も真っ赤に染まっている。今年一番のうれしい紅葉の景色でした。



高野川沿いを岩倉から八瀬・大原そして若狭へつなぐ国道386号線　八瀬ケーブルバス停周辺より


2018.11.29.　比叡山下　八瀬　～八瀬ケーブル駅周辺散策路で～

2018.11.29.　比叡山八瀬ケーブル　八瀬ケーブル駅周辺で

2018.11.29.　比叡山八瀬ケーブル　八瀬ケーブル駅周辺で

2018.11.29. 比叡山下 八瀬 八瀬ケーブル駅周辺散策路で

2018.11.29. 比叡山下 八瀬 八瀬ケーブル駅周辺散策路で